

■ 慈恵大学の「今」を伝える法人情報誌

The JIKKEI

2004 Summer Vol.6

高木岬 *Takaki promontory*

イギリスの南極地名委員会では、昭和39年、高木兼寛の名前をとって南極半島の一角を「高木岬」と命名。その功績を称え、後世に残した。高木岬一帯の地名には国際的に高名なビタミン学者の名前がつけられている。

Takaki promontory

【特集】座談会

新体制で

21世紀の慈恵を目指す

Contents

- 巻頭言** 1p 原点に帰って信頼の回復へ 理事長・学長 栗原 敏
- 特集** 2p 【座談会】新体制で21世紀の慈恵を目指す
慈恵のリーダーである3氏による座談会を通して、改革への取り組みを紹介。
- 慈恵最前線** 8p 全体構造法による失語症訓練 道関 京子
脳血管障害によって発症する失語症のリハビリテーション研究の最新事情。
- 視点** 10p 小児初期救急医療について 伊藤 文之
救急医療環境改善に向けた第三病院の取り組みと課題。
- 研究余話** 11p 睡眠時無呼吸症候群の受診経路と検査所見について 田中 淳子
注目される睡眠時無呼吸症候群の受診・検査の現状を分析。
- 歴史** 12p 評伝 高木兼寛 第五話 夫唱婦随 松田 誠
兼寛の業績を支えた夫人の内助の功を考える。
- 随想** 14p 事務組織の改編にあたって思うこと 相曾 正義
クロスファンクショナル(機能横断的)こそ新体制の役割。
- 学内めぐり** 15p 医学情報センター 清水 英佑
史料室・写真室・図書館・標本館で構成されるセンターの紹介。
- 施設・設備** 16p 本院救急部／スキル・ラボ
救急医療を提供する本院救急部と臨床実技トレーニングを行うスキル・ラボ。
- The JIKEI NEWS FLASH** 17p 医療のレベル向上のために各地で活発に開催される
ワークショップやシンポジウム、セミナー
海外で活躍する同窓医師からの寄稿 など
- 生涯学習** 27p 各種セミナー／研修会／医療連携フォーラムの紹介
- BULLETIN BOARD** 28p 行事
29p 補助金・助成金
30p 財務報告
34p 公示
35p 学事・慶弔
36p 人事
51p 附属病院医師人事委員会報告
55p 東京慈恵会公報
56p ご寄付のお礼
57p 創立百二十周年記念事業寄付者名簿

■平成16年
主な大学行事予定

8月7日(土)
慈恵医大夏期セミナー
大学説明会
(午後1時30分から中央講堂)

9月18日(土)
看護学科12期生戴帽式
(午後10時から看護学科大教室)

10月2日(土)
同窓会支部長会議ならびに
学術連絡会議

10月7日(木)・8日(金)
第121回成医会総会

10月9日(土)
墓参(午後4時から)

10月15日(金)
高木兼寛先生記念日

10月16日(土)
卒後50周年を迎えた方々との懇親会

10月28日(木)
第100回解剖祭(午後1時から増上寺)

12月22日(水)
教授・助教授懇親会(午後6時から)

【巻頭言】



理事長・学長 栗原 敏

原点に帰って信頼の回復へ

昨年11月12日に学長選挙が行われ、私が再選されました。私が学長と理事長を兼務するか否かについては、悩んだ末、今期は理事長・学長を兼務して、大学の管理・運営機構の改善に努めるべきだと考えました。

私は昨年8月1日から、岡村哲夫前理事長の残任期間、理事長を務めてまいりました。その間、今日に至るまで、青戸病院医療事故、科学研究費不正受給、臨床医学研究所における補助金適正化法違反、研究費不適正使用など、本学の医療と研究に関する問題が顕在化し社会的問題となるに至り、本学の管理・運営体制の改善を痛切に感じてきました。

新しい組織の構築には、本学の使命と目標を明確にすることが重要です。“病める人を全人的に治療するための質の高い医療人を育成する”という、本学の原点である学祖・高木兼寛先生の建学の精神を21世紀に具体的に実現することが、本学の使命であり目標であると考えます。本学が創設百年を迎えたときに提出された、“慈恵大学百年記念事業委員会答申”に建学の精神に帰るということが明確に謳われており、私もその答申の骨子を基盤として、これまで大学運営の改善に努めてきました。

病める人を苦悩から解放する医療を実践し、それを支える研究を振興して、本学が医学界でリーダーシップを発揮すべき時に、医療や研究に関する不祥事が相次いで本学で発生したことは痛恨の極みです。これまで幾多の苦難を乗り越えてきた本学の先人に大変申し訳ないという気持ちで一杯です。しかし、本学がこれまでこのような社会的に問題となる医療事故や事件と、比較的無縁で過ごして来られたのは幸運ではありましたが、他方、これまでの大学の管理・運営体制でよしとして、改善・充実を怠ってきたことも否めません。

今後は、これまでの組織のあり方を見直し、新しい体制で大学の管理・運営を進めていきます。組織の改革には痛みも出血もあるでしょう。しかし、組織が進化していくためには、失敗に学びそれを糧として怠りなく努めていくしか道はありません。

今後は、一部の少数意見で意思決定を行うのではなく、合議制を一層推進していきます。理事会は組織としての様々な課題を全員で共有し、透明度の高い意思決定機構を構築していくことが必要です。専務理事は高木敬三理事一人とし、理事会の運営の調整に関わっていただき、理事長を中心とした円滑な運営を図ります。また、川村将弘医学科長(教学

委員長)を理事に指名しました。教学と経営はお互いに意思の疎通を図り、本学の最も重要な使命である質の高い医療人育成を推進していくためです。有能で意欲的な人材の育成によって本学の診療も研究も活性化し、新たな事業の創出にもつながると考えるからです。

また、本学の財政基盤の見直しは急務です。賃金体系の改定や長期建築計画の見直しなど、医療収入の改善を図りながら検討していかなくてはなりません。そのために、小島財務部長を理事に指名し、梅澤祐二財務担当理事と共に財政基盤の確立を図ります。また、職員として小路看護部長には引き続き理事として、看護部の向上と本学全体の看護教育のあり方を検討していただきます。その他の理事には、4附属病院のあり方の検討、青戸病院再建、教員人事評価と育成、医療安全管理体制、研究のあり方、講座等のあり方などの課題を担当していただき、それぞれの検討結果を常任理事会、理事会にあげていただき、審議・決定するという仕組みを作りました。

これまで、理事と事務職との連携が十分でなく、意思の疎通が不十分であったことを反省し、毎週、木曜日午前中には理事長、専務理事、本院病院長、財務担当理事、総務部長、人事部長、財務部長、学事部長、病院事務部長、秘書課長が出席して、法人運営会議を開き、常に組織としての課題を共有しながら運営することになりました。

また、秘書課の充実、理事長アドバイザーの設置など理事長や理事の補佐体制を充実させました。組織としてまだ十分とはいえませんが、これまでとは異なる管理・運営方式を採用することになりました。

さて、大学の管理・運営が円滑に行われているか否かを監視する監査機構が重要です。管理・運営と教育・研究に関して、学外者を入れた監査組織を早急に作り、組織が十分に機能しているか点検する仕組みを作ることが、組織の改善と透明性の保証に必要であり急務と考えています。

本学の使命を認識して独自の道を我々自身で切り拓いていくことによって、特色ある医科大学としての本学の存在意義を社会に示すことができるものと信じています。そのためには本学関係者がまず法を守り信頼できる存在となる必要があります。信頼がないところに道は拓けません。皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

新体制で 21世紀の慈恵を目指す

■青戸病院の医療事故以来、相次ぐ事故や事件によって、慈恵大学はこれまでにない社会的試練を受けています。
 ■こうした中で、社会的信頼を回復するためには、現状をどう認識し、何を課題として取り組んでいくべきなのか。
 ■今回の特集では、慈恵のリーダーである3氏による座談会を中心に、現在の慈恵で行われている改革への取り組みをお伝えします。



座談会出席者

学校法人慈恵大学 理事長	栗原 敏
学校法人慈恵大学 専務理事	高木 敬三
東京慈恵会医科大学附属病院 病院長	森山 寛
司会	
大学広報委員会委員長	阿部 俊昭

不祥事を正面から捉え 21世紀の慈恵を目指す

司会 本日は、慈恵の舵取りをされている皆さんに集まっていただき、慈恵の再建に向けてどう取り組んでいくべきか、忌憚のないご意見を伺いたいと思います。まず、今、慈恵の状況をどう捉えていらっしゃるのか、お聞かせください。

栗原 慈恵としては、前理事長の時代からずっと改革に取り組んできました。中でも慈恵

大学百周年記念事業委員会の答申でも触れているように、良き医療人を育成するという建学の精神が大きな柱であったことは間違いありません。研究偏重の大学ではなく、医療を実践する精神を大切にしてきたわけです。ただ、規模も環境も変わる一方で、体制も変わっていくべきだったのがそのままになっていました。改革の遅れが意思決定や管理・運営にも大きな影響が出て、今回の青戸病院の医療事故にもつながったのだと思います。今は、一連の不祥事を正面から捉え、反省して再出発

すべき時期なのです。

森山 慈恵の最大の強みは、建学の精神を実践することで培われた医療人としての倫理観にあると思います。それは、本来、今の医療に対するニーズに合致するものです。今回の事故は、倫理観そのものの欠如が招いたものだけに、大きな衝撃でした。伝統が根底から崩れたわけですから。ただ、今でも多くの患者さんが来院されますし、慈恵の倫理観を信頼していただいています。だからこそ、真剣に改革に取り組むべきだと思います。



栗原 敏

良いものは継続し、足りない部分を強化していくことが大事です。その意味で、医局制度に対して批判的な意見もありますが、倫理観を養うのには重要な役割を果たしているのではないのでしょうか。

栗原 良い指摘ですね。講座は人がいろいろな意味で交流する場です。無くした大学も

ありますが、帰属意識がないと人は育ちません。良き医療人を育成するためには自分の所属している部署が必要です。

司会 効果をあげるためには、チェアマンになる教授の人事や評価も大事になりますね。

森山 医局制度そのものの見直しも必要でしょう。人を育てるためには、100名くらいのある程度小さなユニットにすべきでしょうし、評価に応じて人を変えろといった人事面での制度作りも必要です。

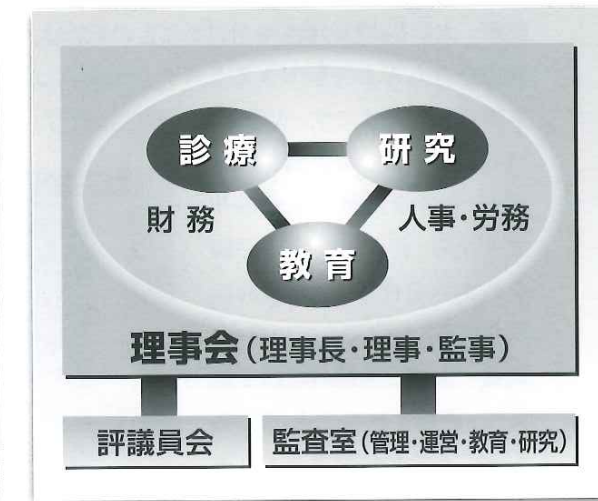
栗原 例えば、講座の壁を超えて、人事を行う仕組みも話し合って作っていかうとも考えています。

倫理観を養うための 教育制度

司会 伝統によって作られた風土は数人の心ない行為によって否定されるものではありませんし、平均的な倫理観は高いと信じたいですね。ただ、高い倫理観を養うためにも、カリキュラムや教育制度などの見直しは必要なのではないのでしょうか。

栗原 卒前教育の改革に積極的に取り組んできましたから、今後は卒後教育の改善にも努力すべきだと考えています。卒業後の医師や看護師の育成プログラムをそれぞれの診療部や看護部で作し、質の高い研修を実践することを検討しています。また、慈恵大学全体としての教育センターを作り、医学教育だけでなく、看護教育や生涯学習も含めて医療人の育成を支援していきたいと思っています。

森山 教育システムは長期間にわたって評価しなければなりません。入試制度の改革やチュートリアルの実施などによって、学生の質は確実に変わってきていると思いますね。



全学一致の運営体制

人事制度を刷新して
大学と病院の壁の解消へ

森山 現在では、担当教授に任されている部分が大き過ぎて、病院長が診療部長の人事に介入できないという問題だと思います。

司会 病院と大学では視点が違うという面もあるのではないのでしょうか。病院はどうしても短期的な視点になりますし、講座という意味では長期的な視点が必要になりますよね。

高木 本質的には、大学と病院を分けて評価していくべきです。ただ、そこで力比べが発生して、矛盾が解消できないでいることも事実です。病院で有効な人事と大学で有効な人事のどちらを優先させるかは、常に悩ましい問題です。臨床講座などは病院の中に位置づけられれば矛盾はないと思いますが。

森山 確かに、それは医学教育機関病院の宿命かも知れません。ただ、お互いの話し合いができていないことが問題なんだと思います。そのために、医師教員人事部という別組織を立ち上げようと栗原先生とともに準備しているところですよ。

栗原 大学と病院の機能を分けることの矛盾は、両方をきちんと評価できるシステムがあれば解消されるはずですよ。大学では一般的に教育・

研究業績によって評価されますが、色々な評価方法がありますから、皆が納得する評価システムを作って、組織的に取り組みたいと考えています。

司会 大学と病院の垣根を越えて、慈恵オールとして評価することで全体がコントロールできるというわけですね。



高木 敬三

お互いを認め合う風土の中で
スペシャリストを育成

高木 今まではネガティブ評価だったと思うのですが、これからはポジティブ評価を行っていきます。診療部長なども期限を決めて、任期中にどれだけ病院に貢献したかを評価していくことになるでしょう。

栗原 医療の面でも特色につながる評価をしていきたいと思っています。今は特定領域に特化したスペシャリティを持った医師のニーズが高まっています。大学教育の過程で、慈恵の精神を植えつけながら、基本的な診療能力を涵養し、その後の教育で各々の専門を伸ばしていくことになります。医師を目指す若い人に夢を与えることにもつながるはずですよ。

森山 これからは最先端の分野も積極的に取り込んで、特色を出して、次のステップにつなげていきたいですね。

高木 ただ、スペシャリティの評価は診療分野によっても違ってきます。このため柔軟性の高い評価システムが必要です。

栗原 適切な評価をするためには、お互いを認め合うということも大事です。大学全体、病院全体から見た機能や必要性を理解してもらうとともに、学生や若手医師など現場の声に

耳を傾けていくことも、大学の姿勢として求められることのひとつです。

透明度の高い
シンプルな組織

司会 現場の声を吸い上げるためには、組織も分かりやすくすべきだと思うのですが。

森山 今までも同じような議論があったはずですが、意思決定機構を明確にしないと若手もどこに意見を持って行って良いのか分かりませんね。大学としては理事会、病院は運営会議ということになります。

栗原 意思決定機構は明確になっています。むしろ機能や運営の問題が大きいと思います。例えば、教授の選任についても実質的には教授会議に任されています。教授会議の決定を理事会が拒否したことはほとんどないはずですよ。また、理事会自体が間違った方向に行かないように、評議員会が理事会を評価できる体制や外部の方による監査機構を作ろうと考えています。

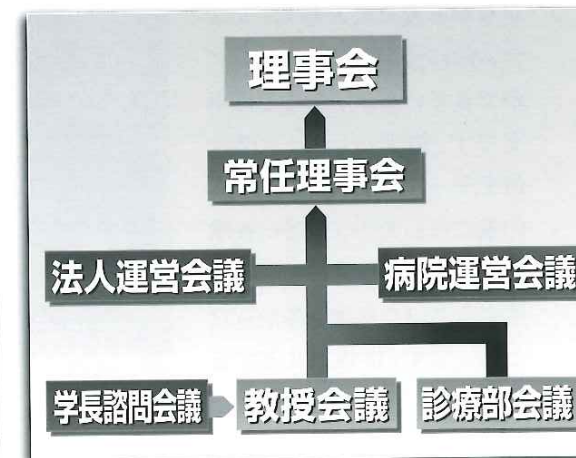
現在は合議体制を徹底するために、事務職と連携して、理事や事務部門の各部長を入れた法人運営会議を毎週定期的に行っています。常に理事会のメンバーと事務職が情報を共有し、検討した結果を常任理事会や理事会で審議して決定するという意思決定のプロセスをガラス張りにして、徹底して情報公開していきます。

高木 専務理事の体制も変わりました。今まで私を含めて3名の専務理事が理事長に代わって決定していたのですが、これからは私ひとりになって、決定権は持ちません。あくまで、理事会で決定したことを推進することになります。



森山 寛

意思決定のプロセス



司会 組織をシンプルにして透明性を高めることで、一体感を強化していこうと言うわけですね。

情報を公開して
意識を変革

森山 効果が表に出るには時間がかかるかも知れませんが、職員も含めてボトムアップを図っていこうと思っています。すでに病院のチーム医療では、職員もメンバーに入っていますし、自発的にやってくれるケースもあります。こうしたことから職員の意識改革も進むはずですよ。

高木 職員人事は正しい評価と適材適所を心がけて、もっと大胆に行っていきます。内部の人材の育成が間に合わない場合は、外部から適切な人材を採用することも考えています。

司会 今回の一連の事件でも職員へのケアが足りなかった印象がありますが。

高木 これまで経験したことがなかったことだけに、システムの情報のシェアリングができていなかったことは事実です。結果として、大学は何をやっているんだ、という印象になったのですが、教職員の間でも積極的に情報を伝達するという意識が薄かったと思います。情報を共有する



司会/阿部 俊昭

ためには、意識を変える必要があるんです。栗原 青戸の医療事故は刑事事件ということで、公開できる情報が限定されていました。また、問題が起きたときに全容が把握できていないと、正しいことを伝えることができません。全容を把握するためには調査が必要になります。そうしたことから対応が遅れ、透明性を欠くような印象になったのではないのでしょうか。今後は、緊急時にどういった手段で情報を伝達するのが良いのか考えて欲しいところです。

危機感を共有して
全学一致の協力体制へ

森山 いくら良いシステムを作っても、結局は人の問題です。良い人がいないと、情報が正しく伝わらずに、目に見えないことが不満につながります。今の事態は、これまで考えてきたシステムを実現させるための良いチャンスです。人の意識を変えるような大きな改革を行っても、皆が納得してくれるはずですから。

司会 危機感を持って臨めるかどうかが鍵になりますね。

栗原 私としてはこれまでの体制に相当な危機感を持っていますが、一人では大きな改革はできません。教授を初めとする慈恵の教職員の皆さんが、組織の一員として改革に取り

組む姿勢が重要だと思います。

森山 ただ、一般に指摘されるように、危機感に温度差はあると思います。

高木 慈恵の危機であって、自分の危機だとは考えない人もいるでしょうね。

森山 慈恵再建のために全学一致の協力体制を作るには、今まで当事者に限られていた

危機感を、全学的に共有しなければならないと思うんです。

栗原 それは同感です。先ほど医師教員人事部の話が出ましたが、やはり人事制度が大事です。改革には痛みも出血もあるでしょう。今、財政基盤の見直しを行っていますが、その一環で給与体系も変更していきます。その他にも、提案・苦情窓口の設置(グリーンボックス)、病院医療管理体制の強化、医療広報担当の設置など出来るところから早急に様々な改革に取り組んでいきます。

慈恵の医療を実現して
再建への道を拓く

司会 慈恵再建という意味では、病院の再建も重要ですね。

栗原 病院の建築計画は検討しています。青戸病院も再生させます。どう再生させたらよいかに関するリサーチを開始します。これには4病院の機能分担をどうするかも視野に入れています。

森山 本院としては、外来棟と中央棟のリンクが重要な課題です。新しい外来棟は一年でも早く建てたいと考えていますが、それまで、医療収入を増やすために、現状の狭い施設で何が出来るかを考え、実行していくつもりです。

司会 医療の質の向上も問われるところだと思いますが。

森山 患者さんを初め、同窓や職員からも信頼される病院になるためには、医療の質を向上させることが必要なのは十分理解しています。慈恵の内部で人材を育成する時間がないと判断すれば、一時的に外部から採用することも当然だと考えています。外部の血を入れて活性化させることも必要なんです。この点については、周囲の皆さんにご理解していただきたいと思っています。

高木 人事については、外部から人材を採用することも柔軟にできるように、人事制度と評価システムは思い切って刷新していこうと考えています。

栗原 今の慈恵は、まだ患者さんからの信頼もありますし、十分立ち直ることができると思います。そのためには、慈恵の目指す医療をどうやって実現するかが最も重要です。今は平常時ではなく、改革の時です。全学的一致協力体制を作り、改革の手を休めることなく、理想の実現に向けて前進していきたいと考えています。

司会 慈恵再建のために、強力なリーダーシップを発揮されることを期待しています。本日はありがとうございました。

新たな体制による
大学運営の特徴

- 合議制の推進
- 法人運営会議による機能的で透明度の高い運営
- 理事長・理事を補佐する総務部
- 理事の役割分担と連携
- 教学と経営は車の両輪
- 病院の管理・運営に関する病院長権限の強化
- 危機管理体制の改善充実
- 広報の改善充実と情報の開示
- 卒後教育システムの構築
- 内部・外部監査室の設置



全体構造法による失語症訓練

脳梗塞や脳出血などの脳血管障害によって発症する失語症のリハビリテーション（以後リハビリ）では、通常は目標が二つ設定される。一つは医学的リハビリ領域での機能回復の目標であり、もう一つはその後の社会的リハビリとしての環境・心理面支援の目標である。なぜなら、失語症の完全な回復は望めないことが多く、障害を抱えたままQOL (Quality of Life) の問題が重要になっているからである。したがって、失語症支援は、限界のある医学リハビリから環境・社会的支援の比重の方が大きくなっている。

こういった現状の中、当大学リハビリ科では第三病院に言語部門を設立した当初から、医学リハビリつまり失語症そのものの根本的回復を高める科学的臨床研究をつづけてきた。

それは、次のような原点にたつたリハビリの手技である。言語とは、固定したものではなく振動であり運動体であるから、その運動体を操作できる能力の訓練が考案されなくてはならないこと。しかも、残された脳が主体的・自発的に波動運動体である言語を再構築していきける行程と手段でなくてはならないこと。さらに、人間の脳の言語獲得事実と合わない不自然な条件づけや代償ではなく、コミュニケーション全体の中で再構造化していきける自然な言語発達研究を土台にした手段の抽出でなくてはならないことである。

当科の研究は、脳が動き出す機能的エネルギー源である全身からの知覚利用から始めた。一般に、知覚は感覚と同

じく、受動的にただ与えられれば受け取るものと思われている。しかし、脳は送られてきた感覚を、ただやみくもに受け取っているのではなく、積極的に自分に必要な刺激要素だけを選択して意味づけて知覚している。この脳が行っている能動的な知覚は、触覚、視覚、聴覚、味覚、

臭覚という五感だけでなく、それらを統合した運動や空間の自己感覚という六つの感覚から成り立っている。つまり、自分の身体全体からの情報が関連しながら知覚されるのである。たとえば、清流という視覚から涼しさという触覚が想起されたりする。そして、知覚は量よりも質が重要であり、たくさん与えるより必要なエッセンスだけを与えた方が鋭敏になることも実証し、従来の「がんばれ!」と称し、これでもかこれでもかと練習量をこなさせる言語リハビリは、大きな間違いだったことを判明し指摘してきたのである。

さらに、身体は知覚の入力路だけではなく、声や母国語と共鳴する器官であり、この共鳴をとらえて脳は勉強の対象だった言語を、自分自身（意思や情動）と同化していくことが分かってきた。このように今までの詰め込み主義の言語リハビリでは完全に無視されていた、脳の自発的な言語構成に果たす身体役割の精密な解明を行った。

慈恵の体系は、これまで「先生が言われた。みんなが言った」という上意下達一辺倒の治療から、「私（失語症者）はこう聞いた一如是我聞」への視点の大きな転換であった。刺激を受け取る失語症者の脳側が、どう受け取ったか聞いたかこそを、問題としなければならないリハビリの確立であった。これまでの医療者主体から患者主体への、真の意味での人間性回復リハビリでもある。

この全身知覚とその性質を段階的に取り入れ、聴覚・構音知覚への関与の

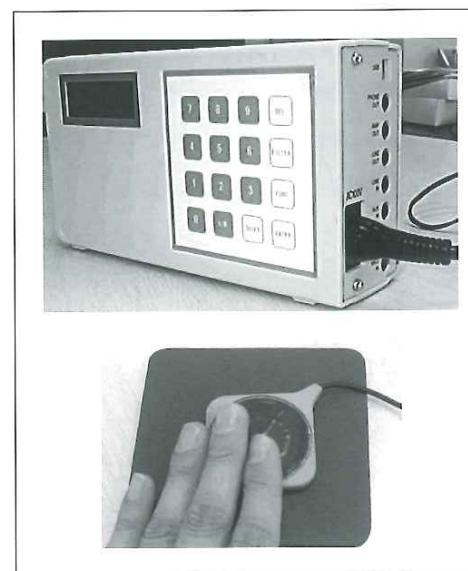


慈恵第三病院リハビリテーション科
言語聴覚士 道関 京子



▲全体構造法の身体を使った訓練場面

臨床研究から、不可能とされていた慢性期失語症の現職復帰者を果たせるようになってきた。本法は全体構造法（慈恵法）または第三病院に本部を置く日本全体構造臨床言語研究会（Japan Institute of Speech Therapy）の略称でJIST法として認知され、その科学性と成果の確実性が学会等全国的に支持されてきた。また本法を学びたいリハビリ



▲知覚有効利用のため開発した周波数調整器と振動子

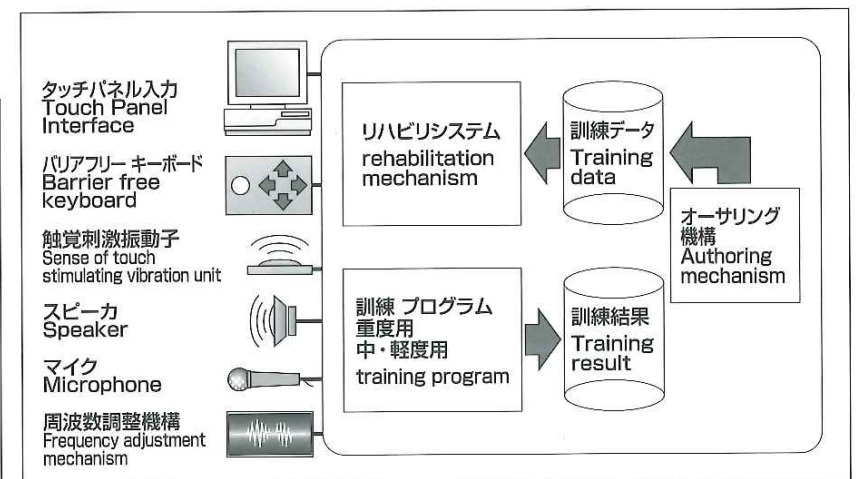
関係者が急増しているため、専門書出版や全国の専門家向けに入門講習会を開催している。

本法は、日本で開発された唯一の言語臨床体系であるが、個々の失語症者に動的に対応しながら進めていくため、本法を施行するためには高度な

技術と知識が必要である。それを得られない失語症者のために、6年にわたり厚生省神経疾患委託研究（当時）を受け、全体構造（JIST）法による失語症リハビリ支援システムの開発も行い、慈恵の患者だけでなく全国の在宅患者の支援にも研究を広げてきた。この機器

は、研究と貢献の高さが評価され、1996年財団法人マルチメディアコンテンツ振興協会のマルチメディア・グランプリ '96において特別賞を受賞した。これ以後も、中軽度者用訓練ソフト、唱えるカード、携帯振動機器などの開発を続け貢献してきた。現在も開発病院として、最先端の研究と責任を果たしている。

本法は、失語症を対象として研究を始めたものだが、人間の脳が言語機能を高次化していくもっとも自然なプロセスを踏襲していくため、適用対象に言語疾患の区別はなくなり、現在は、あらゆるタイプの失語症や吃音、小児の発達遅滞、機能的構音障害さらに聴力障害まで全言語障害の領域で効果が学会・ジャーナル等で報告されている。



▲開発した全体構造法訓練システム構成

本法の案内は、JISTホームページ
<http://homepage2.nifty.com/jist/>をごらんください。

〒206-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1
東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科言語室
TEL: 03-3480-1151 (内線3348-9) FAX: 03-5497-4120

小児初期救急医療について

第三病院小児科診療部長 伊藤 文之



睡眠時無呼吸症候群の 受診経路と検査所見について



中央検査部
田中 淳子

わが国の小児救急医療体制の不備が大きな社会問題としてマスコミでしばしば取り上げられています。行政、地域医師会、小児科関連学会など多方面からの整備に向けての取り組みが始まっていますが、ニーズに十分には応えられていないのが現状です。小児救急の抱える問題にはさまざまな要因がありますが、要するに需要と供給のバランスが崩れ、初期救急患者が数少ない二次病院へ集中し本来の機能が果たせない、さらに病院小児科医の過重労働、疲弊が生じているのが現状であります。

このような小児救急の問題は第三病院のある北多摩南部保健医療圏も同じであります。幸い近隣には杏林大学、榊原記念病院、都立府中病院、武蔵野日赤病院など24時間小児救急を実施している大規模病院があり、他の地域よりも小児救急医療環境は恵まれていると思われまます。しかし、初期救急患者が集中する結果、本来の二次病院としての機能に支障をきたすといった問題が生じています。

このような問題を解消するために東京都は平成13年より小児初期救急平日夜間診療体制支援事業を開始し、地域医師会が参画し葛飾区、練馬区をはじめ現在10の地域で初期救急施設が稼働しています。しかし、これらの施設が効率よく機能しているとは言い難いのが現状で

あります。患者が望む救急医療施設は検査や入院が可能な病院であることがアンケート調査で明らかになっており、二次病院に集中するのは避けられないと考えられます。初期救急と二次医療を効率よく進めることが急務であり、そのひとつの選択肢として完結型救急医療体制の構築が考えられます。具体的には、狛江・調布をひとつの救急医療圏として捉え、現在別々に行われている医師会による休日診療施設を統合して第三病院敷地内に移設し、医師会主導による初期医療への対応、検査・処置・入院が必要な患者は第三病院医師が引き継ぐといった完結型の医療体制であります。

現在、中野総合病院がこのような形態で実施しています。しかし、マンパワーなどいくつかの問題点に直面しているようです。

狛江・調布地区の初期救急医療体制の確立に向けて狛江・調布医師会で検討が始まっております。また、第三病院としてもできる限りの協力をしたというお考えを坂井院長は表明され、行政、医師会に第三病院が加わる形で協議会が立ち上がりました。第一回目の会合が5月に開かれましたが数多くの解決すべき問題が提起され、今後協議を重ねていかなければならない状況であります。

睡眠時無呼吸症候群 (Sleep Apnea Syndrome: SAS) は、睡眠中に呼吸が停止するため夜間の睡眠が妨げられ、昼間に過度の眠気を生じる疾患で、一般人口の1~2%、中高年男性の3~5%を占める疾患です。しかし、関心が高まってきたのはここ数年ほどです。これには平成14年の山陽新幹線の居眠り運転事故の報道に代表されるように、マスコミの影響が大きかったように思います。当院脳波検査室におけるSASの依頼件数は年々増加し、平成12年度などは500件余りと平成10年度の約2倍を示し、特に男性の伸びが目立ちます。精神神経科睡眠障害専門外来では、精神生理性不眠症、精神的障害に次ぐ睡眠障害関連疾患となっています。

そこで、検査部では精神科睡眠障害専門外来を受診した症例を対象にその内容を調査しました。対象は平成3年から平成10年までの8年間に精査、加療を受けた152例、平均年齢は43.3歳で、中高年男性が主体です。受診経路は、精神神経科初診が51例33.6%と最も多く、耳鼻咽喉科49例32.3%、内科17例11.2%の順でした。簡易睡眠ポリグラフ検査 (PSG) は脳波は12誘導で、呼吸は鼻部、胸部、腹部でそれぞれモニターし、その他眼球運動、おとがい筋電図、心電図を組み合わせています。睡眠時無呼吸とは、睡眠時における10秒以上の鼻および口における気流の停止と定義され、閉塞性と中枢性に分けられます。閉塞性は上気道の閉塞を示し、中枢性は呼吸中枢の活動停止を示します。152例のうち閉塞性SASが116例76.3%を占め、中枢性SASは16例10.5%、原発性びびき症は20例13.2%でした。Body Mass Index (BMI) は中枢性SASの24.1に対して、閉塞性では27.5と高い肥満傾向を示し、無呼吸指数は中枢性の23.8に対し、閉塞性では39.1と有意に重症でした。過度の眠気は閉塞性では73.3%と有意に高く、頻度は低いものの、入眠障害を訴える症例は閉塞性の3.4%

に対し、中枢性では12.5%と有意に多数でした。この差異は閉塞性の方が中枢性に比し、無呼吸指数で15以上重症であることと関連していると考えられます。身体疾患では閉塞性の70.7%に扁桃肥大などの耳鼻咽喉科的疾患が、中枢性の18.8%に慢性閉塞性を主とする呼吸器疾患が認められました。これらは原因疾患と考えられ、その他高血圧、心電図の異常などSASに続発する身体合併を10~25%に認めており、多彩な症状の存在がうかがわれました。以上から、治療にはさまざまな科の連携が必要です。診断には終夜の睡眠ポリグラフ検査が不可欠ですが、現在当院では、精神医学講座山寺亘講師を窓口にし、精神神経科、耳鼻咽喉科、呼吸器内科による共同治療体制が開始しており、18日病棟において二泊三日の終夜睡眠ポリグラフ検査を実施しています。これから益々増えていくと思われまますが何か御質問等がありましたら御相談ください。



名誉教授
松田 誠

第五話

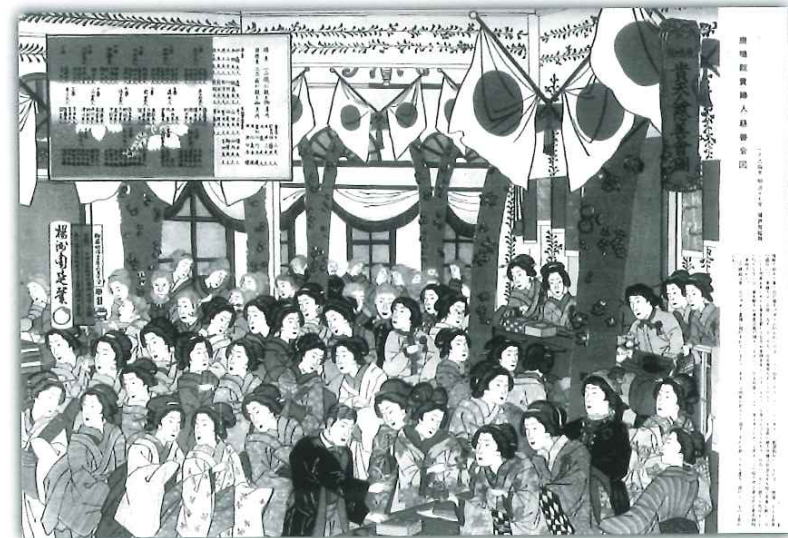
夫唱婦隨

高木兼寛は明治8年から5年間英国に留学したが、その留学で切実に感じたのは、日本国民の民度が著しく低いことであった。帰国したらぜひその基礎になる衣食住を洋風(英国風)に改めねばならないと考えた。彼はまず、衣食住の改善には夫人たちの協力が是非必要であるという考えから、海軍軍医の夫人を会員とする「愛生社」という親睦会を結成した。それは兼寛夫人・富子を会長とし、実吉安純、豊住秀堅ら兼寛一党の夫人を幹部とする全海軍軍医夫人の会であった。毎月一回兼寛宅で開かれる会合では、兼寛も加わって、西洋の婦人の交際の仕方や、礼儀作法、衛生上のこと、子供の教育のことなどについて講義をした。そのうち社交ダンスの稽古や洋食のマナーなどの講習もおこなうようになり、会場も芝公園の水交社を使うようになった。

そのころ政府も西欧化をすすめるために、その運動の中心になる建物・鹿鳴館を完成

した(明治16年)。これは日本人の生活を西欧化し、外国人との交際を密にするための社交場であった。この建設には兼寛もいささか貢献したが、さらに彼は貴族や軍人たちを組織し、これに先の愛生社を加えて「鹿鳴会」なる会を興した。この鹿鳴会では、婦人たちは洋装して出席し、さかんに夜会、舞踏会、仮装などをおこなった(鹿鳴館時代)。兼寛夫妻もこれら催物を大いに楽しんだ。はじめ婦人たちは、このような欧化主義運動には、あまり積極的ではなかったが、そのうち少しずつ馴れていった。兼寛も「私の家内などもはじめは外国風を大変嫌いましたが、私は強情ではぜったい負けなかつもりで強情を張りましたら、今では私より西洋風がいいと云うようになりました」と夫人の変化を大変喜んでい

そのころ鹿鳴会の有志(伊藤博文夫人らを中心とする貴族夫人)は「婦人慈善会」なるものを結成して、しばしば慈善バザーを催し、その収益金を兼寛らのつくった有志共



鹿鳴館貴婦人慈善会図

立東京病院に寄付した(明治17、18年。その寄付金で病院の看護婦教育所がつくられた)。彼女たちはかねてから兼寛らの病院設立の慈善的趣意に感動していたのである。婦人慈善会の支援はしだいに強力になり、病院を東京慈恵医院と改称して、その維持費をさらに皇室の恩賜金によるように改革した(明治20年)。そのためそれまで海軍軍医学校に共生するかたちであった兼寛らの医学校(成医学校)も、この病院に付属するかたち(東京慈恵医院医学校)になり、ようやく海軍から独立することになった。

このように見てみると、西欧化運動や病院・医学校の建設などにたいして、愛生社会長・兼寛夫人の貢献も間接的とはいえやはり見逃すことはできないのではないだろうか。

病院・医学校の建設のほかに、兼寛のもう一つの大きな業績は脚気病の原因究明とその予防法、治療法の発見であるが、この業績にたいしても兼寛夫人の寄与は無視できないのである。日露戦争勝利の翌明治39年、兼寛は欧米の視察旅行にでかけたが、目的は脚気病の予防、治療に成功したことを講

演するためであった。この講演によって彼は、後年ビタミン発見の先駆者として高い評価を受け、南極大陸に「Takaki Promontory 高木岬」の地名をのこすことになるのである。外国での発表でもあり、その原稿作成には兼寛もずいぶん神経をつかったらしい。準備のため、彼は事務長と兼寛夫人を同伴して、北海道に二週間も滞在している。その間、彼は毎日夫人を前にして講演のリハーサルをおこない、事務長はそれを速記するよう命ぜられた。夫人は聴講者のつもりで講演を聴き、分かり難いところや腑に落ちないところは遠慮なく質問し、兼寛はそれをこころよく取り入れ、草稿を修正していった(事務長は速記をとりながら、その情景を見てしんから羨ましいと思ったと告白している)。そのためか、すでに印刷になっているその講演は、理路整然としていて、いま読んでみても非常に分かりやすいのである。

こうしてみると南極大陸にのこる「高木岬」を顕彰するときにも、やはり兼寛夫人の内助の功も同時に想起してよいのではないだろうか。

事務組織の改編にあたって思うこと



法人事務局 総務部
部長 相曾正義

大学、附属病院のより機能的な管理運営体制への改革の一環として事務組織が本年4月より大きく変更されました。この変更にもなつて、法人事務局に、これまでの人事部、財務部の他に総務部が新設されました。総務部は、総務課、秘書課、企画課、システム課、広報課の5課より構成され、その業務は、人事、財務を除く、学校法人の運営・管理に関する諸事務業務、さらには各種広報業務など広範におよびます。さて現在、大学、附属病院は医療安全管理体制の再構築をはじめ、さまざまな改善・改革に取り組んでいます。この改善・改革にあたっては、部署や部門の職務を超えてクロスファンクショナル（機能横断的）の問題解決に取り組む必要があります。そもそも、患者さまの要望はクロスファンクショナルなものです。医療にせよ、安全管理にせよ、患者サービスにせよ、ひとつの部門だけで応えられるものはありません。したがって、クロスファンクショナルな取り組みを機動的にできるかどうかが患者さまの要望に応える鍵を握るものと考えます。

このことは建学の精神である「病気を診ずして病人を診よ」に通ずるものと考えます。去る2月7日、(財)日本企画協会開催の「医療の質マネジメントシステム(医療機関におけるISO 9001の活用)」講演会に出席する機会がありました。講演会でも強調していましたが、ISOマネジメントシステムの基本はPDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルであります。このPDCAサイクルは、ISOに限らず、すべてのマネジメントに共通することと考えられます。したがって、少なくとも管理に携わる人は日々の業務のなかでも、意識してPDCAサイクルを回すことが必要と考えます。

このことについては、「月間アイソス5月号2003年(2006)」で橋崎健志氏が次のように述べられています。「人は必ずPDCAサイクルを無意識に回しており、そのことはナボレオンやマリーフィー、マイヤーなどのいわゆる「成功の本」などに見られるように色々な人が書物にあらわしている。日本でもこれらの本は隠れたベストセラーであり多くの企業トップのお話を聞いても同じことを強調されている。上述の本に共通なことというのはPDCAサイクルを意識的に回せということである。色々な本に書いてある成功の原則は、方針を立て、目標を作り、行動計画を立て、実行し、見直し、そして過去の悪い習慣を新しい習慣に変えろということに尽きる。」

私は、この4月に中央検査部臨床検査技師から事務員として総務部長を命ぜられました。これまでとは業務内容の全く異なる職種であり、この職種変更こそがクロスファンクショナルなことと考えます。改編された事務組織を有機的に機能させるため、これまでの技術職としての経験を生かし、法人のみならず病院を含めた大学全体において部門や職域を超えた対応に率先してあたるとともに前述したPDCAサイクルを意識的に回し、業務の改善、改革に努め、さらに中央検査部時代の目標であった、安全、確実、迅速を継承し、総務部長としての職務に邁進する所存であります。

医学情報センター

センター長 清水 英佑 (環境保健医学講座教授)

医学情報センターは、昭和59年に図書館・標本館・写真室・史料室の4部門が統合され、発足しました。皆様方は、何れかの部門に一度は出向いたことがあると思いますが、今後共より一層のご利用をお願い致します。

(開館時間)	平日	土曜日	日曜日	内線
図書館	8:00~22:00	8:00~19:00	9:00~17:00 (学内のみ)	2125
標本館	9:00~22:00	9:00~19:00	——	2141
写真室	9:00~22:00	9:00~19:00 (受付及び印刷:8:30~17:00)	——	2142
史料室	9:00~17:00 (月・水・金のみ)	——	——	2143

さて、其々の部門についてご紹介しましょう。

史料室

本学が誕生して今年で123年が経過しますが、学祖 高木兼寛先生の遺品をはじめ、本学に関する資料を展示しています。さらに、記録ビデオや年代別アルバム、遺墨等、多種にわたり、数多くの資料が保管されています(高木2号館6階)。

年間、多数の方が見学に訪れますが、予め予約が必要となります。係員の説明に耳を傾け、時代の流れに浸るのも楽しいものです。また、資料の貸出も行っております。



史料室

写真室

写真室は主に講義、学会発表、論文投稿などでの教材、研究資料の製作支援を行っています。患者病変部や顕微鏡写真などの各種医学写真およびビデオの撮影を行います。さらに、銀塩写真、電子写真やデジタルビデオなどの技術を活かして写真、スライド、カラープリント、ビデオなどの製作サービスを提供しています。また、患者様への診療情報提供を支援するレントゲンフィルムの複製も行っています。近年、コンピュータ・プレゼンテーションが急速に広まり、写真室では画像入力、デジタルビデオ編集やプレゼンテーション技法に関するサービスも行っています。パソコンでのスライド作製や画像処理に関する操作などの相談も受け付けていますので、必要の際はご連絡ください(高木会館4階)。

図書館

図書館は西新橋の本館と国領分館に分かれています。本館の蔵書のほとんどは医学に関する資料で、外国雑誌を中心に約23万冊あります。図書館ではこのような資料の閲覧・複写・貸出サービスを行っているほか、医学分野の代表的なデータベースであるMEDLINEや医学中央雑誌など、学術情報を快適に利用するための様々な情報源を提供していて、学内教職員や同窓生への代行サービスも行っています。このように来館しなくても利用できるサービスは多いですが、図書館には情報検索のための相談を受け付ける専門家がいるほか、有益なCD-ROMや印刷体資料が多数あり、それらをコピーするためのカラーコピー機もこの春から導入されました。学内関係者には日曜も開放していますので、お近くにお越しの際はご利用ください。



図書館

標本館

標本館の歴史は、大正5年に建てられた鉄筋コンクリート造りの御大典記念館(現在、西新橋校 中庭隣)に解剖標本と病理標本が収納されていたことにより始まり、様々な経緯を経て、現在の教育用標本室(高木会館4階)が誕生しました。

現在、陳列展示されている標本は約2,000点の実物標本であり、鋳型乾燥標本、プラスチック液浸標本、プラスチック樹脂包埋標本、ピン挿入液浸標本が殆どを占めています。近年では、実際に手に触れて学習することのできるプラステーション標本の作製も行っています。

全国からの問合せも多く、看護専門学校や鍼灸専門学校等より見学の申込みも有ります。

一方、ビデオやスライドプログラムを中心とした視聴覚資料室や学会用備品の貸出サービスの提供も行っています。



標本館



本院救急部 信頼度の高い救急医療を提供

平成11年6月、救急部専従の医師8名により本格的な救急診療が始まりました。現在は10名に増員され、研修医6~8名とともに24時間体制で1次、2次ときに3次救急の対応を行っています。平成15年11月には救急室の大改装を経て、初療室7床、入院14床を総勢34名の看護スタッフと運営している毎日です。

平均60名/日の患者のうち約20件は救急搬送で、多種多様の傷病患者が来院されます。感冒患者の隣でも膜下出血の患者が初療中のことも珍しいことではありません。このように多様な疾病に対して適切に診断を下し、治療を行えるよう研修医を指導し、さらに学生教育の現場としても救急医療

の理解を深めてもらえる修練の場と考えています。今後も各診療科の協力、連携により信頼度の高い救急医療を提供できるよう心掛けていきます。
(附属病院 救急部・部長 小川 武希)



▲救急部受付



▲救急部の皆さん



◀専用駐車場



スキル・ラボ (臨床実技トレーニングセンター)

平成15年度に臨床実技トレーニングセンター(Clinical Skills Center)を設置しました。100平米を超える部屋に、救急蘇生法だけでなく、一般診察のトレーニングとして、心音、呼吸音シミュレータ、内診、直腸診、導入カテーテル挿入モデル、静脈採血モデル、眼底モデル、耳鏡モデルなどを配列し、いつでもだれでも実技のトレーニングができるようになっています。平成17年度までの3年間でさらにシミュレータやコンピュータソフトを整え、わが国でもっとも完備されたスキル・ラボを目指しています。本学では、学生が臨床実習に入る前

に十分なシミュレータでのトレーニングができる環境を整え、医師になった後でも、いつでも自分の技術を再確認できる環境を整備しています。
(医学教育研究室 教授・福島 統)



◀シミュレータでの実技のトレーニング



The JIKEI NEWS FLASH

学内ニュース

新任教授紹介

- ①講座名・氏名 精神医学 中山 和彦
②専門分野 精神薬理学、気分障害、てんかん
③主な略歴
昭和52年 東京慈恵会医科大学卒業
昭和54年 同大学、精神医学講座助手
昭和62年 講師
平成6年 助教授
平成9年 ロンドン大学精神医学研究所 社会医学部門客員教授として留学
平成13年 大連医科大学客員教授
平成16年 本学精神医学講座教授就任
④出身地 愛媛県
⑤趣味・特技 男性合唱、飛行機、鞆

⑥一言メッセージ 精神医療には広域の専門領域からのアプローチが必要です。そのためには基礎および臨床各科との連携が重要となります。さらにリエゾン精神医学、サイコソコロジー、緩和医療、最近では臓器移植に伴うケアなど臨床精神医療に対する需要と期待は高まっています。また慈恵人としてわが講座の原点である森田療法の伝承と新たな展開は重要な任務と心得ています。後続の若手医師とともに、現実に即した「役に立つ精神医療」、「ステイグマ」、偏見のない医療をめざしたいと思っています。



- ①講座名・氏名 泌尿器科学 頼川 晋
②専門分野 泌尿器腫瘍学、前立腺癌、腹腔鏡手術
③主な略歴
昭和56年 岩手医科大学卒業
昭和58年 北里大学医学部泌尿器科助手
昭和63年~平成3年まで米国ベイラー医科大学泌尿器科へ留学(リサーチアソシエイト)
平成14年 北里大学医学部泌尿器科助教授
平成15年 秋田大学大学院医学研究科非常勤講師 米国メモリアルスローンケタリング癌センター客員教授
平成16年 本学泌尿器科学講座教授就任
④出身地 静岡県
⑤趣味・特技 ゴルフ、アクアリウム、ハイキング、時にテニス

⑥一言メッセージ 泌尿器科領域の中でも主に腫瘍学、婦人泌尿器科学、小児泌尿器科学といった外科的領域を中心に講座としての専門色を出して行きたいと考えます。昨今、グローバル化して競争の時代に突入した感がありますが「外から見ても顔のわかる泌尿器科医」すなわち、この疾患であればあの先生にお願いすれば大丈夫と言って頂ける泌尿器科医を教室員一同で目指したいと考えております。



- ①講座名・氏名 皮膚科学 中川 秀己
②専門分野 乾癬、アトピー性皮膚炎、皮膚腫瘍
③主な略歴
昭和52年 東京大学医学部卒業
昭和56年~58年 米国ハーバード大学マサチューセッツ総合病院皮膚科研究員
昭和63年 東京大学皮膚科学教室助教授
平成9年 自治医科大学皮膚科学講座教授
平成16年 本学皮膚科学講座教授
④出身地 宮崎県
⑤趣味・特技 釣り、料理

⑥一言メッセージ 皮膚は体内外の様々な変化に敏感に反応し、種々の皮膚疾患を生じ、患者さんの生活の質に大きな影響を及ぼします。皮膚疾患の予防や治療は人としての尊厳を保つために重要であることを十分に考え、最良の医療の提供、皮膚疾患病態解明、治療法の開発を積極的に行っていきたいと考えています。



安全管理と倫理教育の改善と充実を目指して 医療の安全管理と倫理教育ワークショップ

青戸病院の医療事故から学び、本学における「安全管理・倫理教育の改善と充実」を進めるために医学教育研究室・福島統教授、総合医科学研究センター臨床研究開発室浦島充佳講師ならびに医療安全管理室を中心に下記の日時で各機関において「医療の安全管理と倫理教育ワークショップ」が開催されました。なお、平成16年度に入り、第2回目の「医療の安全管理と倫理教育ワークショップ」の日程も決定され、4月から7月にかけて各機関で開催されることになっています。



▲講演中の浦島講師



▲オリエンテーションする福島教授

各機関開催日時

- 青戸病院：平成16年1月17日（土）午後1時～5時
青戸看護専門学校講堂、教室
- 本院：平成16年2月14日（土）午後1時～5時
大学1号館3階講堂
- 第三病院：平成16年2月21日（土）午後1時～5時
第三看護専門学校講堂
- 柏病院：平成16年3月13日（土）午後1時～5時
柏看護専門学校講堂

ワークショップの目的

医師をはじめ全職種の人たちおよび学生、看護専門学校生の人たちが、職種、身分を越え話し合う機会を持つことで慈恵医大での医療の質の向上を高め、いく具体的な方策を考える。また参加者は主体的に自分の周りのことから具体的な提言を行う。

参加者

- 医師：10名、研修医・レジデント：10名、
- 看護師：20名、看護専門学校生：10名、
- 診療系技術職：10名、事務職：10名の計70名
- （4月からは更に医学生10名が加わる）

進行内容は、午後1時からのオリエンテーション、続いて浦島講師がアメリカ留学中に経験された医療事故報告「ダナ・ハーバー癌センターの事例、事故の詳細とその後の病院での改善活動」次いで、グループごとに「青戸病院医療事故を振り返って」の意見交換が行われ、どのような問題点があったのかをグループ内で討論を経て、代表者による発表が行われました。また、グループ内で「医療の安全管理について、自分の職種で考える」についても討議が行われました。今回のワークショップでは、医師、研修医・レジデント、ならびに看護師、診療系技術職、事務職および看護専門学校生によるグループ編成が行われ、異職種間のコミュニケーションを図ることも大きな目的の1つとのことでしたが、問題の共有化や相互理解につながったとの意見が出されていました。なお、このワークショップで提案された意見、提言、方策は大学に報告されることになっております。一方、平成16年度の卒前教育カリキュラムや新医師臨床研修プログラムでの安全管理・倫理教育面についても更に拡充されることになっていきます。



▲グループワーク（西新橋）



▲グループ発表（柏病院）



▲グループワーク（青戸病院）

4病院で1623名が参加 第11回 4病院合同リスクマネジメント・シンポジウム

去る平成16年3月4日（木）、午後5時30分よりテレビ会議システムを利用した4病院合同リスクマネジメント・シンポジウムが開催されました。今回の主たる内容は、前記の「医療の安全管理と倫理ワークショップ」がメインテーマでした。

各機関における参加者は本院・大学関係では997名、青戸病院関係は198名、第三病院関係では252名、また柏病院関係は176名と本シンポジウムの総数は1,623名となりました。その中でも西新橋の会場は、大学1号館3階会場のほか中央講堂2階、3階席も埋めつくされるといった状況でありました。



▲参加者で満員になった大学1号館3階講堂

第11回 4病院合同リスクマネジメント・シンポジウム

日時 平成16年3月4日（木）午後5時30分～7時
次第

1. 総司会：
小林正之 柏病院リスクマネジメント委員長
2. 開会挨拶：
北原 健二 附属病院（前）院長
久保 政勝 柏病院院長
3. 演題及び演者
【附属病院】
「医療の安全管理と倫理ワークショップの概要
並びに本院実施報告」
* 講演者：医学教育研究室・福島 統 教授
【青戸病院】
「医療の安全管理と倫理ワークショップ：
平成16年1月17日実施報告」
* 講演者：薬学部・荒木 修 課長
【第三病院】
「医療の安全管理と倫理ワークショップ：
平成16年2月21日実施報告」
* 講演者：総務課・文司 安彦 課長
（現・事務部長）
【柏病院】
「手術室における改善の取組みと今後の課題」
* 講演者：麻酔部・近江 禎子 診療部長
4. 閉会挨拶：
慶田城 順子 柏病院看護部長

大学説明会・オープンキャンパスのお知らせ

医学科		大学説明会 開催日時：平成16年8月7日（土）13:30～16:00 場 所：本学西新橋キャンパス・中央講堂
		オープンキャンパス 開催日時：第1回 平成16年7月3日（土）14:00～15:30 第2回 平成16年9月4日（土）14:00～15:30 第3回 平成16年10月2日（土）14:00～15:30 場 所：本学西新橋キャンパス・大学1号館講堂 ※大学説明会、オープンキャンパスとも参加自由です。
		大学説明会 開催日時：平成16年7月27日（火）14:00～16:30 平成16年8月27日（金）14:00～16:30 参加希望者は事前に申し込みが必要となります。
看護学科		大学見学 ご希望の方は看護学科学事課へお問い合わせください。

約160名の地域住民の方々が参加 第15回 青戸病院公開健康セミナー

青戸病院では地域一般住民を対象に健康維持・病気の予防援助を目的に、身近で関心の高い生活習慣病や老化に伴う病態や疾患をテーマに取り上げ、5月と11月の年2回葛飾区医師会共催、葛飾区後援にてJR亀有駅前の亀有地区センターで開催しています。回を重ねるごとに地域住民の関心も高まり、参加者からは大変参考になったとの声も多く聞かれます。



第15回公開健康セミナーは、次の通り開催され、約160名の参加者がありました。

- 平成16年6月5日(土) 午後2時～午後4時
- 亀有地区センター
- テーマ：「あなたの骨は大丈夫？」
- 演題：
 1. 「骨とはどんなものか？」
附属青戸病院 腎臓・高血圧内科 重松 隆
 2. 「高齢発症の関節リウマチについて」
附属病院 リウマチ・膠原病内科 横山 徹
 3. 「骨の予防体操」
(株)東京アスレチッククラブ 小澤 孝
 4. 「高齢者の転倒と骨折」
附属青戸病院 整形外科 重松 隆
 5. 「骨を丈夫にする食事は何」
附属青戸病院 栄養部 濱 裕宣

慈恵看護のあり方委員会主催によるシンポジウム 第1回シンポジウム「慈恵看護のあり方を考える」

平成16年2月5日(木)、午後6時より大学1号館3階講堂において慈恵看護のあり方委員会主催による第1回シンポジウム「慈恵看護のあり方を考える」が開催されました。

当委員会は、慈恵大学看護職に就いている4機関教職員(看護学科、4機関看護部、4看護専門学校で構成)によるもので参加者は360名ありました。

初回のテーマとして「安全から考える看護技術教育」と題し、座長に看護学科、住吉蝶子教授(現・社団法人東京慈恵会総合医学研究センター医学教育研究部在任、客員教授)ならびに本院、大水美名子副看護部長が担当いたしました。

当日のスケジュールは次のとおりですが、看護技術の概念を改めて考え直す機会となり、実践力を高めるために基礎と臨床とのつながりをもった看護技術教育の必要性などが討議されました。なお、今後も本会をもって、種々の情報を共有するなど、より良い看護の向上につながるよう企画を進めて



▲真剣に取り組む参加者の皆さん



▲熱の入った討議が進められる

まいります。また、看護職員に限らず、皆様の聴講も歓迎いたします。

テーマ — 安全から考える看護技術教育 —

■座長

看護学科 住吉 蝶子 教授
(現・社団法人東京慈恵会総合医学研究センター医学教育研究部在任、客員教授)
附属病院 大水 美名子 副看護部長

■シンポジスト

看護学科教授 深谷 智恵子
「成人看護学における看護技術教育の実状」
慈恵看護専門学校副教育主事 蛸名 総子
「基礎教育における安全教育～安全の礎は臨床実習から～」
第三病院看護師長 奈良 京子
「看護技術習得過程における臨床実習での着眼点」
本院看護師長 山岸 清美
「看護技術教育の再構築に向けた臨床の将来像」

慈恵流包丁式を継承する 栄養部・包丁式



今からおおよそ1100年あまり昔、五十八代天皇の光孝天皇は料理に造詣が深く、その命により四條中納言、藤原朝臣山陰卿が、山の神・火の神・水の神・海の神を祭って庖丁さばきを奉納したのが、庖丁式の始まりといわれています。

このたび附属病院(本院)の栄養部では部内の安全を祈願し、1月23日に庖丁式を開催しました。庖丁式に使用する素材は、三鳥五魚といい、鶴・雁・鴨・鯉・鯛・鱈・真鯉・鮒が用いられますが、当栄養部では、鯛を使用する事になりました。

当日は栄養部員の他、他職種の方々も見学に参加され、庖丁式は始まりました。庖丁刀とまな板を使い、魚には一切、手を触れることなく鯛の頭と尾を切り落とし、身は三枚に卸します。会場内には紅白幕が張られ、会場内にもピンと張りつめた雰囲気を感じ、私自身もかなり緊張しました。しかし、大鯛を無事さばくことが出来、見学の方々から拍手をいただいたときホッと肩の力が抜けました。

当院における庖丁式は四條流の本格的な庖丁式ではありませんが、昼食時間内の限られた中での要点のみを披露するという、いわば慈恵流となっています。

この慈恵流庖丁式を継承し、今後も続けていきたいと思っております。

附属病院 栄養部 調理師 関根 英樹



▲手を触れずに三枚に卸す

「中高年の肩・腰・膝の痛み」

整形外科・講師 舟崎 裕記



中高年になると、加齢に伴い肩や膝の関節や脊椎の変性が生じ、痛みのために日常生活動作に支障をきたすことも少なくない。五十肩とはまさしく好発年齢層そのままをあてがった呼び名で、古く江戸時代からその概念が知られている。明らかな誘因もなく、肩に痛みを覚え、気付いた時には関節の拘縮が生じているが、その後、自然に軽快することが多い。しかし、ときに腱板損傷を含めたインピンジメント症候群でも同様の経過をとることがあるので、疼痛が長引いたり、夜間痛などがある場合には注意が必要である。膝関節では、日本人の場合、多くはO脚変形となって内側の半月板や軟骨の変性、断裂に

よる痛みを生じる変形性膝関節症が発症する。いわゆる中年太りも膝に多くの負担をかけるので注意が必要である。女性では閉経後、骨の粗鬆化が加速され、腰痛をきたすことも多い。

また、歩行により下肢のしびれや落痛が出現し、前屈姿勢での休息により軽快するといった間欠跛行を生じる場合には腰部脊柱管狭窄症を疑う。

中高年におけるこれらの疾患は、加齢を基盤として発生するため、確実な予防は困難であるが、体重の自己管理、ストレッチや日光にあたりながらのウォーキングなどの適度な運動を普段から心掛けることが重要である。

医療の安全と危機管理をテーマに 柏病院・第5回地域医療連携フォーラム

柏病院では平成16年5月26日(水)に、第5回地域医療連携フォーラムを柏看護専門学校講堂において開催しました。今回は、「医療の安全と危機管理」を主題として講演は約1時間半にわたりました。

今回、柏病院顧問弁護士の村田真一先生を招聘して、医療訴訟対策-初期対応における注意点についてご講演頂きました。参加者は地区医師会、教職員を含め総勢118名となりました。当院としても、



▲地区医師会や教職員が参加

引き続き医療の安全体制を構築していくことを改めて痛感させられた価値あるフォーラムとなりました。なお、講演終了後には、外来食堂におきまして意見交換会を行いました。

●平成16年5月26日(水)午後7時~午後8時40分
慈恵柏看護専門学校 講堂
プログラム:医療の安全と危機管理
総合同会:リスクマネジメント委員会

- 委員長 笠原 洋勇
- I. 柏病院における医療安全管理対策
 - 1.医療安全管理室の新設について
医療安全管理室 室長 小林 正之
 - 2.手術に関する安全管理規定について
麻酔部診療部長 近江 禎子
 - II. 医療訴訟対策-初期対応における注意点
柏病院顧問弁護士 村田 真一 先生
 - III. 閉会の辞
柏地区医師会 会長 十念 一浩 先生
 - IV. 意見交換会(外来食堂 セラ)午後8時40分~

骨と筋肉の健康を考える 第16回 第三病院公開健康セミナー

平成16年3月13日(土)、第三看護専門学校6階大教室にて第16回第三病院公開健康セミナーが開催されました。「骨と筋肉の健康」と題しまして、リハビリテーション科診療副部長・猪飼哲夫講師、リハビリテーション科理学療法士・中山恭秀講師によるリレー講演が行われました。当日は天候がよく60名の参加がありました。参加者にわかりやす

い講演内容また、工夫を凝らした実技講演が行われ、参加者よりとても満足されたとの声がかれました。平成11年3月より第1回公開健康セミナーが始まり今回で16回目の開催となっております。地域住民の方々に定着しつつあり、今回で10回以上参加した方もおり、関係者一同、大変に喜んでおります。次回は10月に開催予定です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



▲リハビリテーション科理学療法士・中山恭秀講師



▲リハビリテーション科診療副部長・猪飼哲夫講師

慈恵大学全体の安全管理対策の強化として 二次救命処置コースが開催される

慈恵ACLSコース

このたび慈恵大学全体の安全管理対策強化の一環として二次救命処置(Advanced Cardiovascular Life Support)を医師、看護師を対象に、また一次救命処置(Basic Life Support)対象は教職員、学生に教育体制の整備が進められています。この整備には、本院救急部、柏病院救急部、麻酔部、循環器内科に勤める医師、看護師の有志が集い準備会を経て、開催に至っております。

第1回慈恵ACLSコースは、2月1日(日)に開催されました。このコースの開催は、スタッコール(学内救急コール)委員会(リスクマネジメント委員会に属する)で循環器内科医師、麻酔科医師、本院、柏病院の救急部医師、看護師が実行委員となり、受講対象者は各機関の医師、看護師でした。当日は、「九州大学ACLSを広める会」の野田英一郎医師、日本大学救急医学科から木下浩作講師をはじめ医師、看護師が、また消防庁関係からは芝、野田、草加各署の救急救命士の方々にもご協力を頂いての開催となりました。

5月23日現在、次の日程で4回ほど二次救命処置のコースが開催されていますが、各コースとも実技実習と蘇生マネキンを用いたシミュレーションを通じてACLS技能を習得してもらうようにデザインされています。学習の主なねらいは「突然の心停止に対して最初の10分間の適切なチーム蘇生を習得する」「医療人としての標準的緊急処置の体得」「コース指導者の育成」となっております。なお、本コースを通じて、医師、看護師をはじめ熟練された蘇生チームが編成される一助になればとの考えに基づき、今後もこの活動範囲はさらに展開されます。

第1回慈恵ACLSコース

開催日:平成16年2月1日(日)8:30~18:00
場所:本院看護学校 実習室
対象:医師、看護師
参加者:86名(受講者23名、見学者28名、運営関係者(インストラクター含む)35名)

第2回慈恵ACLSコース

開催日:平成16年3月21日(日)8:30~18:00
場所:高木会館 学生演習室
対象:附属4病院の医師、看護師で今後インストラクターを目指す人
参加者:91名(受講者24名、見学者20名、運営関係者(インストラクター含む)47名)

第3回慈恵ACLSコース

開催日:平成16年4月25日(日)
前半8:30~12:30、後半13:30~17:30
場所:高木会館 学生演習室
対象:平成16年度初期臨床研修医
参加者:161名(研修医90名、見学者15名、運営関係者(インストラクター含む)56名)

第4回慈恵ACLSコース

開催日:平成16年5月23日(日)8:30~18:00
場所:高木会館 学生演習室
対象:医師、看護師
参加者:75名(受講者24名、見学者15名、運営関係者(インストラクター含む)36名)



▲蘇生マネキンを用いた実技実習



経済産業省副大臣らがICタグによるカルテ管理システムを見学 経産省・厚労省・台湾からの施設見学



▲システムの説明を受ける泉副大臣

昨年の施設見学に引き続き、平成16年3月8日（月）経済産業省泉副大臣ら3名の方々が物流部門での技術応用に向けて施設見学がありました。はじめに北原（前）院長より外来カルテ管理の目的や導入経緯などを説明したのち、各担当者より概要説明と現場でのデモンストレーションを行い、副大臣はシステムのほか施設面にも興味深く見学されました。また、2月24日（火）には厚生労働省医政局医療技術推進室の方々2名による医療安全への活用を視野に入れての視察がありました。両省ともこ

のICタグがe-japan構想の具体的な技術として生かせるかを本学の施設見学を通して参考にするとのことでした。

平成16年3月10日（水）には台湾商業司・工業局・大学関係者など12名の視察があり、ICタグの活用ばかりでなく中央カルテ室の設備や機器についても熱心に見学されました。

今年になってすでに3回の見学があることから、ICタグはバーコードに代わる非接触型の読取り装置として注目を浴びており、各方面より技術応用が期待されています。



▲台湾からの視察団

学校法人慈恵大学のホームページが リニューアルされました



4月1日より学校法人慈恵大学のホームページがリニューアルされました。内容によっては旧ホームページに掲載されていたものが暫定的に掲載されていますが、随時、更新してまいります。今後、更に内容を充実していくことが

必要と考えておりますので、建設的なご意見、ご要望をお寄せ下さい。本件に関する窓口はホームページ委員会事務局（法人事務局総務部広報課）までお願い致します。

■慈恵大学ホームページ <http://www.jikei.ac.jp/>

「安全から考える看護技術」をテーマに 看護専門学校四校合同交流会

平成16年5月22日（土）午後3時より大学・南講堂において第3回看護専門学校四校合同交流会が開催されました。本会は、看護教育の質の向上を目的に四校教職員が一堂に集い、年に1回（毎年5月土曜日）講演会やパネルディスカッションなどが行われているものです。

今回は「安全から考える看護技術教育」をテーマに基礎教育の立場から安全に関する看護技術教育の教授内容・方法についてパネルディスカッションが行われました。当日は、四校の学校長、参与、看護教員をはじめ、小路看護部長および多くの看護師長さん方の参加がありました。各校より学生のヒヤリハット事例や与薬に関する授業（技術演習・講義）展開・課題などが発表されました。また四校看護技術検討会からは、厚生労働省の看護教育のあり方検討会報告書を受け、看護学生が臨地実習で行う基礎的看護技術の水準と平成15年度四校卒業生の基礎看護技術到達度の実態と課題に関する

報告がありました。

学生の安全意識向上や確実な援助を行うために学校と臨床がともに学生とどのように関わっていくのかなどの意見交換も活発に行われました。今後も看護基礎教育における技術教育は、学内で学んだことをいかに臨地実習で身に付けていくかが問題であり、学校と臨床との連携にかかっていることが共通認識され、盛会のうちに閉会となりました。



▲パネルディスカッションに参加した四校の皆さん

医師・看護師の国家試験結果発表

第98回医師国家試験・第93回看護師国家試験・第90回保健師国家試験

第98回医師国家試験の結果が、去る4月22日に発表されました。合格者の総数は7,457名で、合格率は88.4%でした。平成16年3月に本学を卒業した新卒業生107名が試験に臨み、103名が合格、卒業生も2名が合格を果たしました。この度の試験において

本学の合格率は94.6%となりました。

また、第93回看護師国家試験および第90回保健師国家試験の結果も発表されました。各校の合格状況は下表の通りです。

■第98回医師国家試験合格状況

■は前回の数字

区分	校数	総数			新卒業生(平成15年3月卒)			既卒業生		
		受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)
本学		111	105	94.6	107	103	96.3	4	2	50.0
		106	102	96.2	104	100	96.2	2	2	100.0
国立	43	4,463	4,029	90.3	4,088	3,852	94.2	375	177	47.2
		4,485	4,100	91.4	4,122	3,943	95.4	363	166	45.7
公立	8	709	657	92.7	668	637	95.4	41	20	48.8
		687	646	94.0	644	623	96.7	43	23	53.5
私立	29	3,216	2,751	85.5	2,839	2,579	90.8	377	172	45.6
		3,348	2,960	88.4	2,923	2,736	93.6	425	224	52.7
その他	—	51	20	39.2	25	9	36.0	26	11	42.3
		31	15	48.4	20	11	55.0	11	4	36.4
合計	80	8,439	7,457	88.4	7,620	7,077	92.9	819	380	46.4
		8,551	7,721	90.3	7,709	7,304	94.7	842	417	49.5

■第93回看護師国家試験合格状況

	医学部看護学科	新橋	青戸	第三	柏
受験者数(名)	25	66	22	44	50
合格者数(名)	25	64	22	43	50
合格率(%)	100.0	97.0	100.0	97.7	100.0

■第90回保健師国家試験合格状況

	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)
医学部看護学科	25	25	100

海外で活躍する同窓医師からの寄稿

本当に意味のある国際協力とは

平成16年1月中旬、同窓の先生より広報課へ本誌の講評についてお電話を頂き、併せて「昨今、新聞紙上ならびにマスコミ報道される慈恵医大の記事には複雑なものがある。しかし、2004年1月9



▲読売新聞に掲載された山本医師の記事

小学校の時、南アフリカ共和国の人種差別問題を目の当たりにして以来、私は国際協力の世界に興味がありました。そして世界各地を旅しながら、「本当に意味のある国際協力」についてずっと考えてきました。しかし、なかなかその道に踏み込もうとはしませんでした。「私が仮に発展途上国へ行き、必死に医者として働いても、助けられるのはせいぜい数百人。年間数百万人が、飢えや病気で死んでゆく現状の中で「焼け石に水」ではないのか?それに半年なり2年なりして任期が終わり、「ああ俺はよくやったな」と思い、「自己満足」して結局日本に帰ってきてしまっただけでは、その国は元の状態に戻ってしまう」「近代文明(を押し付けること)によって発展途上国を開発すれば、経済は成長しGNP(国民総生産)という数字は上がる。西洋医学を使えば死亡率は下がるかもしれない。しかしそれで本当にその国の人たちは幸せになるのだろうか?農業をやっているだけでも、寿命が短くても、幸せな人生があるのではないだろうか?」こんなふうに考えていたのです。

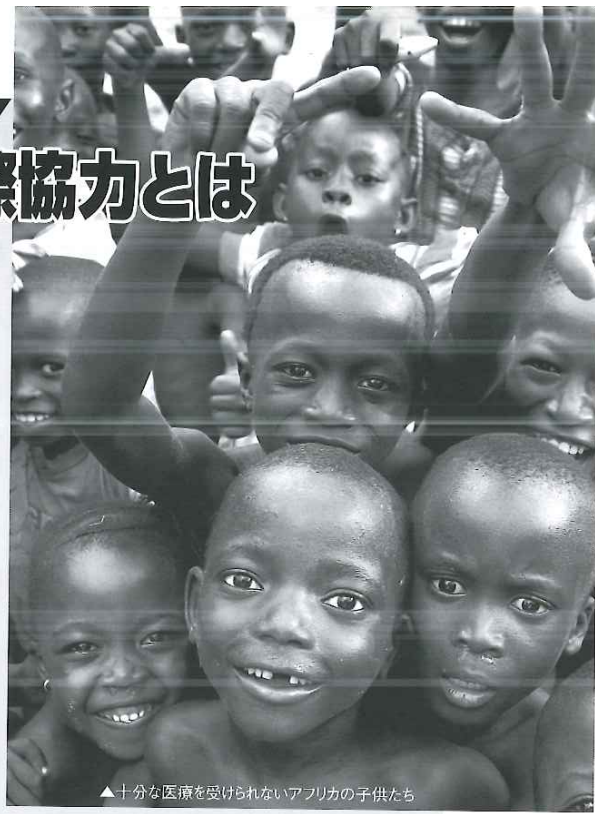
ところが30歳を越えた頃、ふとこう思いました。「現地にいる医療スタッフを徹底的に教育し、私と同じレベルの医療ができるまでに育てあげる。そうすれば、彼らはその国でずっと医療を続けてくれる。そして将来、数えきれないほどの人々を救ってあげるに違いない。」「また西洋文明の押し付けにならないように、必ず現地の言葉を覚え、相手の国の歴史や文化を理解し、それにあった形で国際協力を考えれば、少なくとも一方的な押し付けにはならないはずだ。こうした考えを現場で実践するため、まず私は国際医療援助活動を始めました。

平均寿命34歳というアフリカの国シエラレオネに行き、現地の言葉を覚え、必死で行う医療活動の合い間をぬって、教育を病院スタッフに行いました。

この国の7割以上の人は学校に行っておらず、文字の読めない人たちでしたので、そうした人々を日本の看護師さんレベルに育てるのは困難を極めました。しかし、毎日のトレーニングと定期的な試験により、私が帰国するまでには、十分な医療技術を習得できたと思っております。この結果、それから数年経った今でも、良好に運営されてい



▲現地で治療にあたる山本医師



▲十分な医療を受けられないアフリカの子供たち

日付の読売新聞に掲載された「異端伝・7」山本敬晴医師の記事(西アフリカシエラレオネおよびアフガニスタンにおける診療活動)は、このような医師が慈恵医大を卒業していたというのは誇りであり、大いに励みになる」旨の連絡を受けました。広報課ではこの電話を契機に、山本先生に連絡させていただき、このたびの記事掲載の運びとなりました。

る病院を残すことができました。

その後、中東のアフガニスタンに行きました。今度も同じように言葉の習得、医療、そして教育をしました。ところが、この国では今でも内戦が続いているため、せっかく建てた病院が壊されそうになったり、がんばって育てた医療スタッフが殺されそうになりました。結局、「未来に残る、意味のある国際協力」をするためには、「戦争をなくすこと」(政治の安定)も非常に重要だと私は気づいたのです。また、我々国際協力団体は、(それが国連、JICA、NGOでも)5年もしくは10年が経てばやがて必ずその国から撤退します。その後、自分たちが建築してきた病院などを現地政府に引渡しをすることになるのです。ところが、アフリカやアフガニスタンでも、政府には経済力(予算)がないため、毎月の病院スタッフの給料や毎週届けなければならない医薬品やその送料を支払うことができません。つまり我々が撤退した後、(事実上)病院などは荒廃してしまってしまうのです。よって、これを防ぐためには、現地政府か、あるいは地元の村(などの地方自治体)を経済的にある程度発展させ、自らの力で病院を運営できるように育てなければならないのです。

一方、義務教育の普及も大変重要です。内戦中の発展途上国では、7割以上の人が義務教育を受けていないことが多く、このため識字率は3割以下です。こうした状況では、医者や看護師はおろか、学校の先生なども育てられません。義務教育は全ての基本であるといえます。さらには、環境問題への配慮も必要です。その国で行ってきた援助が、本当の意味で、未来に残っていくためには、その土地の風習に適合し地元の人から受け入れられており、公害などの問題も起きないように、環境や他の生物(生態系)への様々な配慮をしなければなりません。

以上まとめますと、「未来にずっと続いていける、本当に意味のある国際協力」を実現するためには、政治の安定、経済援助、義務教育の普及、医療と公衆衛生の改善、環境問題への配慮という五つの項目を、すべて同時に考えなければならない...というのが現在の私の結論です。(1990年卒、山本敬晴)

生涯学習

生涯学習センターをはじめとする各機関では、生涯学習のためにセミナーやフォーラムなどさまざまな取り組みを行っています。

慈恵医大生涯学習センター

●慈恵医大生涯学習セミナー

月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育講座参加証(シール)」を交付致します。

■月例セミナー／開催日時：毎月第2土曜日(休日を除く) 16:00～18:00(但し、1月、8月、10月、12月を除く)

場 所：慈恵大学病院中央棟8階会議室

月日(曜)	テーマ	講師名
7月10日(土)	PEG(経皮内視鏡的胃ろう造設術)	外科 鈴木 裕 講師
9月11日(土)	ヘルペスウイルスと疾患	微生物第1 近藤 一博 教授
11月13日(土)	脳卒中治療の最先端	脳神経外科 村山 雄一 教授

■夏季セミナー

開催日時：平成16年8月7日(土) 16:00～18:30

場 所：東京慈恵会医科大学 高木2号館南講堂

テ マ：ここまで進んだ悪性腫瘍の早期診断と治療

(主催) 慈恵医大生涯学習センター

(共催) 慈恵医大同窓会、慈恵医師会、港区医師会

(企画) 慈恵医大生涯学習委員会

◎お問合せ先：慈恵医大生涯学習センター

電話：03-3433-1111(大代表)内線2634

青戸病院

●青戸病院公開健康セミナー

葛飾区医師会共催、葛飾区後援にて区民を対象とした公開健康セミナーを毎年5月と11月に亀有地区センター(JR亀有駅南口駅前リリオ館7階)にて開催しています。

●青戸病院症例検討会(CPC)

近隣医師と教職員を対象におおよそ2ヶ月に1度症例検討会を開催しています。

●メディカルカンファレンス

近隣医師と教職員を対象に3、6月にメディカルカンファレンスを開催しています。

◎お問合せ先：青戸病院 管理課

電話：03-3603-2111(大代表)内線2671

第三病院

●第三病院公開健康セミナー

年3回、第三病院看護専門学校大教室にて、市民を対象に健康講座を開催しています。

回数	月日(曜)	時間	テーマ	講師名
第18回	10月2日(土)	14:00～15:30	皮膚の健康	皮膚科 太田 有史 診療部長

●調布市市内大学公開講座

テーマ	月日(曜)	時間	内容	講師名	会場
「年をとっても豊かな生活!!」	10月2日(土)	18:30～20:00	転ばぬ先の杖 -転倒防止の工夫-	リハビリテーション科 猪飼 哲夫 診療副部長/理学療法士	調布市文化会館(たつくり) 映像シアター(6F)
	10月16日(土)	14:30～16:00	床ずれにしない工夫	看護学科 老年看護学 櫻井 美代子 教授	
	11月10日(水)	18:30～20:00	楽しく聞かすためには	耳鼻咽喉科 波多野 篤 診療部長	
	11月13日(土)	14:30～16:00	高齢者の食生活(年齢と食事)	栄養部 藤山 康広 課長	

●第三病院医療連携フォーラム

近隣医師と教職員を対象に、最新医療や医療問題その他のフォーラムを開催しています。

◎お問合せ先：第三病院 管理課

電話：03-3480-1151(大代表)内線3711

柏病院

●柏病院症例検討会(CPC)

近隣医師と教職員を対象に、6月と11月の年2回症例検討会を開催しています。

●柏病院地域医療連携フォーラム

近隣医師と教職員を対象に、地域医療の連携についてフォーラムを開催しています。

◎お問合せ先：柏病院 管理課

電話：04-7164-1111(大代表)内線2185

慈恵医師会

●慈恵医師会産業医研修会

開催日時：平成16年7月17日(土) 13:25～18:45

場 所：東京慈恵会医科大学 中央講堂

(主催) 慈恵医師会

(共催) 東京都医師会

●お問合せ先：慈恵医師会●

電話：03-3433-1111(大代表)内線2636

JIKEI BULLETIN BOARD

大学公報のまとめ

行事 BULLETIN BOARD

1. 平成16年、全機関同時開催(テレビ会議システム)による新年挨拶交歓会が、1月5日(月)午後4時より大学1号館3階講堂に於いて開催された。

1. 平成15年度第5回学位記授与式が、1月19日(月)午後2時30分より、学長応接室において挙行された。
授与された者 大学院修了者 4名
論文提出者 10名 計 14名

1. 牛島 定信教授、戸田 剛太郎教授、天木 嘉清教授の退任記念講義が、1月31日(土)午後2時30分より大学1号館講堂に於いて行われた。

1. 平成15年度大学院入学試験が、次の通り行われた。
2月14日(土) 第二次募集 合格者17名

1. 平成16年度入学試験が、次の通り行われた。
医学科 前期 1月28日(水) 第一次試験
2月8日(日)、2月9日(月) 第二次試験
看護学科 2月10日(火) 第一次試験
2月14日(土) 第二次試験
合格者 49名

1. 平成15年度第6回学位記授与式が、2月16日(月)午後2時30分より、学長応接室に於いて挙行された。
授与された者 大学院修了者 4名
論文提出者 11名 計 15名

1. 献体者に対して、文部大臣より感謝状が贈呈され、2月19日(木)高木会館B会議室に於いて伝達式が行われた。

1. 平成16年度入学試験が、次の通り行われた。
医学科 後期 2月25日(火) 第一次試験
3月7日(金) 第二次試験
合格者 101名

1. 平成16年度大学院入学試験が、次の通り行われた。
2月14日(土) 第二次募集 合格者17名

1. 第79回医学科卒業式、第9回看護学科卒業式が、次の通り挙行された。
3月25日(木) 医学科卒業生 107名
看護学科卒業生 25名

1. 平成15年度慈恵看護専門学校卒業式が、次の通り挙行された。
3月12日(金) 慈恵青戸看護専門学校卒業生 22名
慈恵第三看護専門学校卒業生 43名
慈恵柏看護専門学校卒業生 49名

1. 平成16年度第1回学位記授与式が、4月19日(月)午後2時30分より、学長応接室に於いて挙行された。
授与された者 大学院修了者 2名
論文通過者 12名 計 14名

1. 平成16年度入学式、始業式が、次の通り挙行された。
4月8日(木) 医学部医学科入学者 100名
医学部看護学科入学者 35名

1. 平成16年度大学院研究科入学式が、次の通り挙行された。
4月1日(木) 入学者 36名

1. 看護専門学校入学式が、次の通り挙行された。
4月6日(火) 青戸看護専門学校入学者 35名
第三看護専門学校入学者 50名
柏看護専門学校入学者 78名

補助金・助成金 BULLETIN BOARD

平成16年度 科学研究費補助金配分内定一覧

1. 科学研究費補助金受給一覧

(単位：千円)

種目	15年度(実績)			16年度(実績)		
	件数	金額(直接経費)	金額(間接経費)	件数	金額(直接経費)	金額(間接経費)
特定領域研究(2)	2	34,800	0	2	34,800	0
萌芽研究	5	9,000	0	6	9,100	0
若手研究(B)	52	65,000	0	64	78,100	0
基盤研究(S)	0	0	0	1	27,600	8,280
基盤研究(A)(2)	1	4,600	1,380	1	4,600	1,380
基盤研究(B)(1)	2	2,300	0	1	1,400	0
基盤研究(B)(2)	8	31,700	0	7	30,200	0
基盤研究(C)(2)	58	67,400	0	56	69,600	0
合計	128	214,800	1,380	138	255,400	9,660

2. 科学研究費補助金配分状況一覧(新規採択+継続分)

(単位：千円)

種目	16年度(継続)			16年度(新規)		
	件数	金額(直接経費)	金額(間接経費)	件数	金額(直接経費)	金額(間接経費)
特定領域研究(2)	2	34,800	0	0	0	0
萌芽研究	3	3,100	0	6	6,000	0
若手研究(B)	31	30,300	0	33	47,800	0
基盤研究(S)	0	0	0	1	27,600	8,280
基盤研究(A)(2)	1	4,600	1,380	0	0	0
基盤研究(B)(1)	1	1,400	0	0	0	0
基盤研究(B)(2)	4	14,300	0	3	15,900	0
基盤研究(C)(2)	29	27,500	0	27	42,100	0
合計	71	116,000	1,380	70	139,400	8,280

■平成15年度決算について

1. はじめに

平成15年度の決算は、帰属収入742.3億円に対し消費支出は720.8億円となり、帰属収支差額は21.5億円となりました。これは前年度と比較致して6億円の増加となりました。

2. 消費収支計算書について

- (1) 帰属収入は前年度に比べ16億円の減収となりました。これは、青戸・第三病院の院外処方導入の影響で医療収入が12億円減少したこと並びに120周年記念募金の法人分が私学事業団に預託されていることによる寄付金の減少8億円が主たる要因です。
- (2) 一方、消費支出の総額は前年比21億円の減少となりました。これは、人件費が3億円、減価償却費が5億円増加致しましたが、青戸・第三病院の院外処方導入の影響で医療経費が24億円減少したことと光熱水費・修繕費・諸経費等で4億円減少したことによるものです。

3. 貸借対照表について

- (1) 流動資産は420億円で前年比10億円の増加となりました。これは従来、固定資産に計上しておりました有価証券が償還されて現預金が11億円増加したこと、医療収入の減少により未収入金が1億円減少したことによるものです。
- (2) 固定資産は1,010億円で前年比12億円の減少となりました。これは有価証券10億円が償還され現預金に振替えられたこと

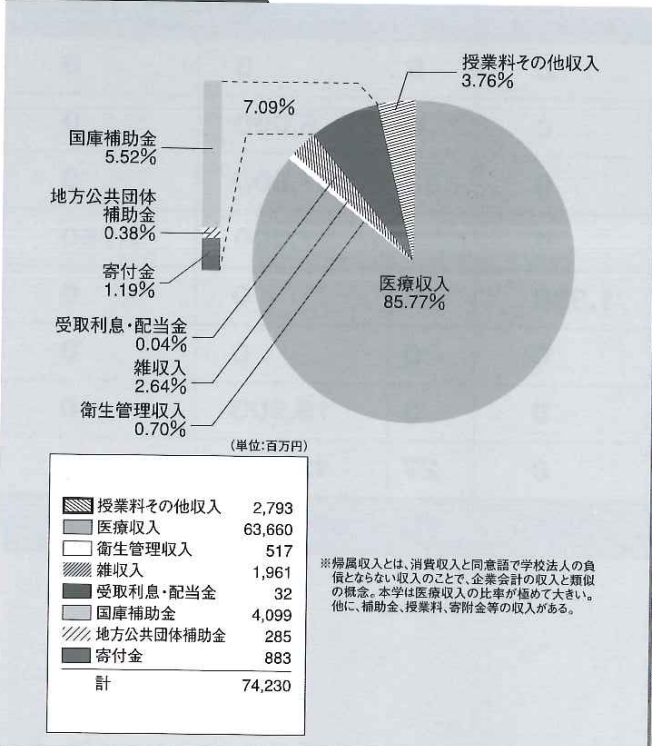
と、減価償却費が固定資産投資額を2億円上回ったことによるものです。

- (3) 流動負債は116億円で前年比4億円の減少となりました。これは薬品費などの減少により未払金が4億円減少したことによるものです。
- (4) 固定負債は381億円で前年比19億円の減少となりました。これは借入金の返済が進んで長期借入金17億円減少したこと、退職給与引当金・長期未払金が2億円減少したことによるものです。
- (5) 基本金は934億円で前年比21億円の増加となりました。

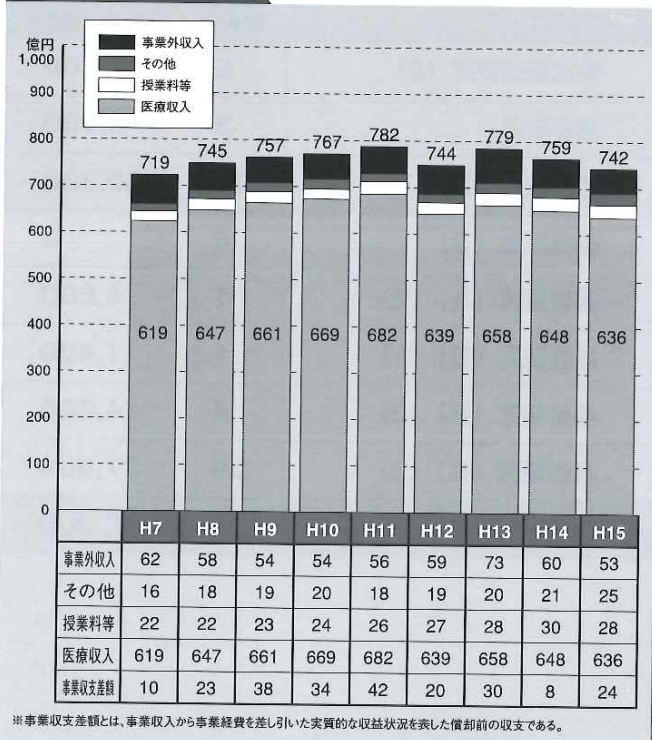
4. 15年度決算の総括について

- (1) 15年度は、医療制度の改正に加え、本学では青戸病院の医療事故、科研費や補助金の不正使用問題等が明らかになりました。
- (2) その中で教職員が一体となり、大型工事の自粛や経費の節減に努めた決算となりました。
- (3) 一方、16年度には研修医の人件費負担増をはじめ、その他の経費の増加が予想されます。本学の経営を磐石なものとするためには、帰属収入の85%強を占める医療収入の安定と、諸経費の節減努力が更に必須となります。
- (4) 特に、本学は医療の質を高め安全に最重点を置いた診療体制の再構築により、一日も早く社会の信頼を回復できるよう努めてまいります。

帰属収入の構成



帰属収入の推移



平成15年度消費収支計算書

自平成15年4月1日 至平成16年3月31日

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
事業経費	66,533,455,007	事業収入	68,931,128,827
人件費	33,477,381,059	授業料その他収入	2,792,674,100
教育研究費	1,085,236,437	医療収入	63,659,882,895
奨学金	133,280,000	衛生管理収入	517,238,843
医療経費	20,448,404,618	雑収入	1,961,332,989
消耗品費	1,096,961,163		
委託費	4,018,470,380		
光熱水費	1,823,451,857		
修繕費	924,079,195		
諸経費	3,526,190,298		
事業外経費	514,406,051	事業外収入	5,299,010,577
支払利息	449,743,224	受取利息	16,873,214
除却損	33,110,641	受取配当金	1,727,040
徴収不能額	31,552,186	有価証券利息	13,873,110
償却勘定	5,035,620,429	国庫補助金	4,099,206,000
建物	2,263,304,185	地方公共団体補助金	284,527,294
設備	802,367,837	寄付金	882,803,919
構築物	30,352,192		
器具	568,104,186		
医療器械	1,278,828,966		
一般備品	92,292,483		
車両	370,580		
合計	72,083,481,487	合計	74,230,139,404
消費支出の部合計	72,083,481,487	帰属収入の部合計	74,230,139,404
消費支出超過額	△1,511,644,774	基本金組入額合計	△3,658,302,691
合計	70,571,836,713	合計	70,571,836,713

(単位:円)

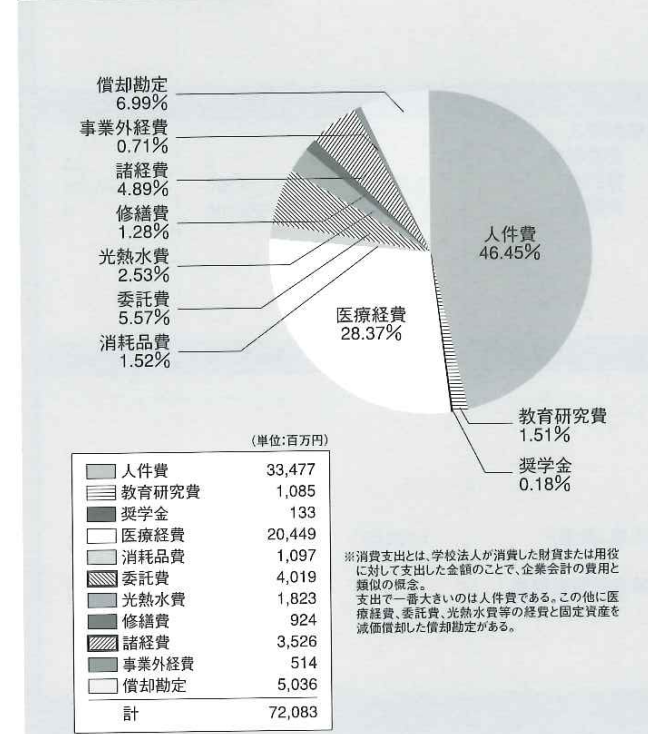
平成15年度貸借対照表

平成16年3月31日現在

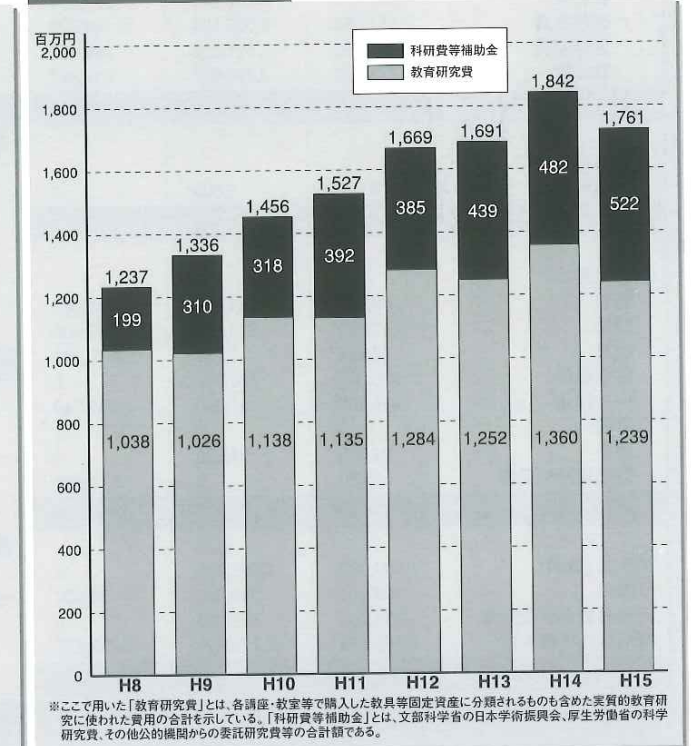
借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
流動資産	42,037,148,735	流動負債	11,570,743,657
現金	107,720,431	未払金	10,389,674,997
預金	31,378,828,453	預り金	426,373,426
振替貯金	20,386,880	前受金	607,810,646
有価証券	22,563,220	保証金	146,884,588
貸付金	233,953,297		
仮払金	102,692,946		
未収入金	10,137,843,812		
貯蔵品	33,159,696		
固定資産	101,058,854,194	固定負債	38,118,133,192
土地	6,331,512,574	長期借入金	21,769,245,000
建物	74,877,099,997	退職給与引当金	16,226,435,092
設備	3,683,248,705	長期未払金	122,453,100
構築物	352,333,517		
器具	3,291,189,883		
医療器械	7,747,534,004		
一般備品	874,966,822		
図書	2,347,777,863		
放射性同位元素	23,161,908		
施設利用権	360,303,600		
建設仮勘定	138,243,000		
有価証券	1,030,000,000		
車両	1,482,321	基本金	93,407,126,080
		基本金	133,148,921,797
		翌年度繰越消費支出超過額	△39,741,795,717
合計	143,096,002,929	合計	143,096,002,929

(単位:円)

消費支出の構成



本学が教育や研究に充当した費用の推移



■平成16年度予算について

1. はじめに

栗原理事長は年頭にあたり、「本年は医療安全管理体制を改善・充実することを最重要課題とする」とし、本学が医療機関として質の高い医療人育成の教育を実践するには、「収益基盤を点検し長期建築計画を見直し、附属病院の特色を明確にして行くことが必要です」と表明されました。これを受け次の通りの予算編成と致しました。

2. 平成16年度予算編成の基本方針

- (1) 安全管理予算に最重点をおくこと。
- (2) 青戸病院の回復予算を最優先とする。
- (3) 財務基盤の強化を図ること。

3. 資金収支予算の概要

(1) 一般会計予算

①収入面では、医療収入の増加245百万円、授業料その他収入の増加55百万円、研修医必修化に伴う補助金の増加77百万円などの増収要因を見込みましたが、治験収入の減少や国保事務取扱手数料の廃止などにより雑収入173百万円の減少が見込まれ、収入全体では前年度予算比211百万円の増加を予定しました。

②支出面では、研修医の必修化等による人件費の増加383百万円、医療経費の増加475百万円などを主因として、事業経費全体で前年度予算比1,179百万円の増加を見込みました。

固定資産は、前年度に本院外来予約システムがあった影響で、16年度は一般備品が大きく減少し、前年度予算対比235百万円の減少を見込みました。

③予備費は、安全管理予算として500百万円を新たに増額致しました。

記念事業会計積立金は300百万円としました。

(2) 特別会計予算

①収入面では、16年度は120周年記念募金の法人寄付金630百万円が事業団より交付されます。一般会計からの繰入金金は2,775百万円を見込み、記念事業会計積立金は300百万円としました。

②支出面では、第三病院手術棟の建築が終了し、医療器械・建設仮勘定合計で前年予算比1,746百万円の減少となりました。

③16年度に予算化した工事は次の通りです。

- 法人部門：柏病院システム 150百万円
- 西新橋：大学2号館給湯システム、空調工事、本館外壁 250百万円
- 本院：外来整備工事 120百万円
- 青戸病院：診療部門の拡充 70百万円、本館煙突工事 70百万円
- 第三病院：手術棟第三期 375百万円、本館外来工事 70百万円

平成16年度一般会計予算書

支 出				収 入			
科目	15年度予算	16年度予算	比較	科目	15年度予算	16年度予算	比較
事業経費				事業収入			
人件費	33,149,000	33,531,645	382,645	授業料その他収入	2,716,720	2,771,458	54,738
教育研究費	1,373,270	1,368,455	△4,815	医療収入	62,957,000	63,202,000	245,000
奨学金	147,510	30,750	△116,760	衛生管理収入	500,890	500,890	0
医療経費	19,212,670	19,687,680	475,010	雑収入	1,305,440	1,132,830	△172,610
消耗品費	1,082,970	1,164,213	81,243	管理棟収入	117,700	124,000	6,300
委託費	4,308,470	4,536,324	227,854				
光熱水費	2,151,650	2,005,124	△146,526				
営繕経費	821,620	1,091,056	269,436				
諸経費	3,773,660	3,785,037	11,377				
計	66,020,820	67,200,284	1,179,464	計	67,597,750	67,731,178	133,428
事業外経費				事業外収入			
支払利息	8,000	8,000	0	受取利息	10	9	△1
計	8,000	8,000	0	補助金	3,700,810	3,778,200	77,390
				寄附金	530,000	530,000	0
固定資産				計	4,230,820	4,308,209	77,389
建物	46,000	184,000	138,000				
設備	147,000	242,500	95,500	借入金(新規)	1,900,000	1,900,000	0
教具	76,460	3,780	△72,680	一般会計資金取崩	0	0	0
医療器械	830,000	830,000	0				
一般備品	434,700	51,360	△383,340				
車両	0	0	0				
図書	94,220	94,220	0				
放射性同位元素	12,850	0	△12,850				
計	1,641,230	1,405,860	△235,370				
借入金(返済)	1,900,000	1,900,000	0				
予備費	300,000	350,000	50,000				
記念事業会計積立金	300,000	300,000	0				
特別会計へ繰入金	3,558,520	2,775,243	△783,277				
計	6,058,520	5,325,243	△733,277				
合計	73,728,570	73,939,387	210,817	合計	73,728,570	73,939,387	210,817

(単位:千円)

平成16年度特別会計予算書

支 出				収 入			
科目	15年度予算	16年度予算	比較	科目	15年度予算	16年度予算	比較
事業経費				事業外収入			
消耗品費	13,000	0	△13,000	受取利息	25,640	25,803	163
諸経費	0	0	0	補助金	170,730	168,025	△2,705
事業外経費				記念事業寄附金	200,000	830,000	630,000
支払利息	397,520	409,583	12,063				
借入金(返済)	1,988,100	1,926,100	△62,000	借入金(新規)	0	0	0
固定資産				特別会計預金取崩	1,100,000	0	△1,100,000
設備	0	0	0	一般会計より繰入金	3,558,520	2,775,243	△783,277
医療器械	851,140	100,000	△751,140	記念事業会計積立金	300,000	300,000	0
一般備品	5,000	50,456	45,456				
教具	0	0	0				
建設仮勘定	2,100,000	1,105,442	△994,558				
次年度繰越金	130	507,490	507,360				
合計	5,354,890	4,099,071	△1,255,819	合計	5,354,890	4,099,071	△1,255,819

(単位:千円)

平成15年12月1日

- 1. 山田 治男 助教授(派遣中)に、客員教授を命ずる。
1. 清水 光行 助教授(定員外)に、教授(定員外)を命ずる。
1. 内田 満助 教授に、教授(定員外)を命ずる。
1. 利田 鉄郎 氏に、附属青戸病院泌尿器科診療部長を命ずる。
1. 小野寺 昭一 氏に、附属病院泌尿器科診療部長(兼任)を命ずる。

平成15年12月31日

- 1. 大石 幸彦 附属病院長、願により附属病院長の職を解く。
1. 松井 道彦 専務理事、願により理事、専務理事の職を解く。

平成15年12月25日

- 1. 附属青戸病院医療事故に係る管理責任により、次の通り給与返上とする。
岡村 哲夫 前理事長 給与の30% 3ヵ月
栗原 敏 理事長・学長 給与の20% 3ヵ月
小森 亮 専務理事 給与の20% 3ヵ月
松井 道彦 専務理事 給与の20% 3ヵ月
高木 敬三 専務理事 給与の20% 3ヵ月
大石 幸彦 附属病院長 給与の20% 3ヵ月
落合 和彦 前青戸病院長 給与の20% 3ヵ月

平成15年12月25日

- 1. 附属青戸病院医療事故に係り就業規則第103条第13号により、次の通りとする。
大西 哲朗 泌尿器科 懲戒解雇
班日 旬 泌尿器科 懲戒解雇
長谷川 太郎 泌尿器科 懲戒解雇
1. 附属青戸病院医療事故に係り就業規則第103条第13号により、次の通りとする。但し、出勤停止の起算日は、保釈許可決定の指定条件第5項が解除された日の翌日とする。
前田 重孝 泌尿器科 出勤停止10日
1. 附属青戸病院医療事故に係る処分を、就業規則第102条第5号により、次の通りとする。
尾崎 雅美 麻酔科 謹慎

平成16年1月1日

- 1. 山口 裕 助教授に、教授(定員外)を命ずる。
1. 村山 雄一 講師に、特任教授(期間3年間)を命ずる。
1. 松浦 慎太郎 講師に、助教授(派遣中)を命ずる。
1. 附属病院副院長 北原 健二 氏に、附属病院業務代行を命ずる。
1. 鎌田 芳夫 氏に、附属病院眼科診療部長を命ずる。
1. 二ノ宮 邦彦 氏に、附属第三病院形成外科診療部長を命ずる。
1. 増井 文昭 氏に、附属柏病院整形外科診療部長を命ずる。
1. 内田 満 氏に、附属柏病院形成外科診療部長を命ずる
1. 落合 和徳 氏に、附属病院医療安全管理室室長を命ずる。

平成16年1月14日

- 1. 白井 信男 助教授に、附属青戸病院長を命ずる。(就任年月日平成16年4月1日付)
1. 坂井 春男 教授(定員外)に、附属第三病院長を命ずる。(就任年月日平成16年4月1日付)
1. 久保 政勝 教授(定員外)に、附属柏病院長を命ずる。(就任年月日平成16年4月1日付)

平成16年1月31日

- 1. 大石 幸彦 教授、願により泌尿器科学講座担当教授の職を解く。

平成16年2月1日

- 1. 津久井 一平 助教授(派遣中)に、客員教授を命ずる。
1. 吉田 和彦 氏に、附属青戸病院外科診療部長を命ずる。
1. 黒田 徹 氏に附属青戸病院手術部部長(兼任)を命ずる。
1. 大石 幸彦 氏に、大学直属教授を命ずる。

平成16年2月26日

- 1. 森山 寛 氏に、学校法人慈恵大学理事を命ずる。(平成16年1月1日付)
1. 白井信男氏に、学校法人慈恵大学理事を命ずる。(平成16年1月1日付)
1. 坂井春男氏に、学校法人慈恵大学理事を命ずる。(平成16年1月1日付)

平成16年3月1日

- 1. 総合診療部を内科学講座に包含する。(平成16年4月1日付)

平成16年3月4日

- 1. 濱 邦久 氏、岡島 進一郎 氏に学校法人慈恵大学監事を委嘱する。(就任年月日平成16年4月1日付)
1. 学校法人慈恵大学評議員が、次の通り選任されました。(就任年月日平成16年4月1日付)

- (寄附行為第22条第2項第1号)
榊原 義勝 梅澤 祐二 落合 和徳 川村 将弘 高木 敬三
深谷 智恵子 上出 良一 谷 論 池上 雅博 東條 克能
徳留 悟朗 大野 裕治 興梠 清美
(寄附行為第22条第2項第2号)
小島 憲明 高橋 実貴 今出 進章 阿部 素子 文司 安彦
佐藤 清 小寺 嵩士 小路 美喜子 相曾 正義

- (寄附行為第22条第2項第3号)
岩田 正晴 林 栄太郎 足立 信一 國府田 守雄 川田 忠良
渡邊 盛雄 村岡 伸一 益子 博 原 貞夫 富井 純子
(寄附行為第22条第2項第4号)
栗原 敏
(寄附行為第22条第2項第5号)
森山 寛 白井 信男 坂井 春男 久保 政勝
(寄附行為第22条第2項第6号)
高木 公寛 太田 義武 米津 等史 飛鳥田 一朗

平成16年3月10日

- 1. 細谷 龍男 教授、落合 和徳 教授(定員外)、田尻 久雄 教授(定員外)、小路 美喜子 看護部長に、附属病院副院長を命ずる。(就任年月日平成16年4月1日付)
1. 首田 和彦 助教授、伊藤 洋助 教授に、附属青戸病院副院長を命ずる。(就任年月日平成16年4月1日付)
1. 伊藤 文之 教授(定員外)、田井 久辰 助教授(定員外)に、附属第三病院副院長を命ずる。(就任年月日平成16年4月1日付)

平成16年3月19日

- 1. 笠原 洋勇 教授(定員外)、藤瀬 清隆 教授(定員外)、柏木 秀幸 助教授に、附属柏病院副院長を命ずる。(就任年月日平成16年4月1日付)

平成16年3月19日

- 1. 矢水 勝彦 教授に、外科学講座総括責任者(チェアマン)を命ずる。(就任年月日平成16年3月11日付)

平成16年3月26日

- 1. 高橋 弘 教授は、就業規則第103条第11号及び第13号により懲戒解雇に処する。
1. 学校法人慈恵大学理事が、次の通り選任されました。(就任年月日平成16年4月1日付)

- 理事長 理事 栗原 敏
" 森山 寛 白井 信男
" 坂井 春男 久保 政勝
" 榊原 義勝 梅澤 祐二
" 落合 和徳 川村 将弘
" 小路 美喜子 小島 憲明
" 岩田 正晴 川田 忠良
" 高木 敬三 望月 正武

平成16年3月31日

- 1. 持尾 聰一郎 助教授に、教授(定員外)を命ずる。
1. 牛島 定信 教授は、定年により職を解く。
1. 戸田 剛太郎 教授は、定年により職を解く。
1. 天木 嘉清 教授は、定年により職を解く。
1. 眞柄 直郎 教授は(定員外)は、定年により職を解く。
1. 大石 幸彦 大学直属教授は、定年により職を解く。
1. 住吉 繁子 教授は、定年により職を解く。

平成16年4月1日

- 1. 穴澤 貞夫 教授(定員外)に、慈恵第三看護専門学校長を命ずる。
1. 武田 信彬 教授(定員外)に、慈恵青戸看護専門学校長を命ずる。
1. 笠原 洋勇 教授(定員外)に、慈恵柏看護専門学校長を命ずる。
1. 加藤 孝邦 氏に附属病院耳鼻咽喉科診療部長を命ずる。
1. 関 晋吾 氏に附属青戸病院循環器内科診療部長を命ずる。
1. 一志 公夫 氏に附属青戸病院内視鏡部診療部長を命ずる。
1. 波多野 寛 氏に附属第三病院耳鼻咽喉科診療部長を命ずる。
1. 長山 瑛 氏に附属第三病院救急部診療部長を命ずる。
1. 松井 和隆 氏に附属柏病院神経内科診療部長を命ずる。
1. 増岡 秀一 氏に附属柏病院輸血部診療部長を命ずる。

- 1. 溝呂木 ふみ 氏に附属第三病院輸血部部長(兼任)を命ずる。
1. 根津 武彦 氏に附属第三病院手術部診療部長(兼任)を命ずる。
1. 柏木 秀幸 氏に附属柏病院手術部診療部長(兼任)を命ずる。
1. 海渡 健 氏に附属病院中央検査部診療部長代行を命ずる。
1. 中山 和彦 助教授に、教授を命ずる。(精神医学講座担当)
1. 額川 晋 氏に、教授を命ずる。(泌尿器科学講座)
1. 白井 信男 助教授に、教授(定員外)を命ずる。
1. 加藤 孝邦 助教授に、教授(定員外)を命ずる。
1. 勝又 壮一 助教授(但し派遣中)に、客員教授を命ずる。
1. 岡村 哲夫 氏に、顧問を命ずる。
1. 小森 亮 氏に、顧問を命ずる。

- 1. 川村 将弘 教授に、医学部医学科教学委員長を命ずる。
1. 羽野 寛 教授に、医学部医学科学学生部長を命ずる。
1. 栗原 敏 学長を、医学部看護学学長兼任とする。
1. 深谷 智恵子 教授に、医学部看護学学長を命ずる。
1. 茅島 江子 教授に、医学部看護学学生部長を命ずる。
1. 櫻井 美代子 教授に、医学情報センター図書館副館長を命ずる。
1. 附属4病院総括責任者を命ずる。
消化器・肝臓内科 藤瀬 清隆
精神神経科 中山 和彦
泌尿器科 額川 晋

- 1. 中山 和彦 氏に、附属病院精神神経科診療部長を命ずる。
1. 額川 晋 氏に、附属病院泌尿器科診療部長を命ずる。
1. 小野寺 昭一 氏に、附属病院感染制御部診療部長を命ずる。
1. 和田 靖之 氏に、附属病院小児科診療部長を命ずる。
1. 銭谷 幹男 氏に、附属病院消化器・肝臓内科診療部長代行を命ずる。
1. 小倉 誠 氏に、附属柏病院腎臓・高血圧内科診療部長代行を命ずる。
1. 吉田 和彦 氏に、附属青戸病院医療安全管理室室長を命ずる。
1. 伊藤 文之 氏に、附属第三病院医療安全管理室室長を命ずる。
1. 小林 正之 氏に、附属柏病院医療安全管理室室長を命ずる。
1. 馬詰 良樹 教授に、教育研究助成委員会委員長・大型プロジェクト対策委員会委員長を命ずる。

- 1. 栗原 邦弘 教授に、生涯学習センター長を命ずる。
1. 法橋 建 教授(定員外)に、衛生委員会委員長を命ずる。
1. 戸田 剛太郎 氏に客員教授の称号を贈る。
1. 牛島 定信 氏に客員教授の称号を贈る。
1. 天木 嘉清 氏に客員教授の称号を贈る。
1. 眞柄 直郎 氏に客員教授の称号を贈る。(慈恵看護専門学校在任中)
1. 住吉 繁子 氏に客員教授の称号を贈る。(社団法人慈恵総合医療センター医療看護職連任中)

平成16年4月19日

- 1. 白井 信男 院長(附属青戸病院)及び小山 照幸 診療部長(附属青戸病院)は、平成16年3月31日、京成電鉄青砥駅構内転落事故に際し、適切な救護処置を行い救命した功労に対し本消防署より消防総監感謝状が贈られました。本学では、就業規則第96条7号(善行)に基づき、理事長より表彰されました。

平成16年4月29日

- 1. 小林 建一 名誉教授は、瑞宝小綬章を受章されました。

平成16年5月1日

- 1. 中川 秀己 氏に、教授を命ずる。(皮膚科学講座)
1. 附属4病院総括責任者を命ずる。
皮膚科 中川 秀己
1. 中川 秀己 氏に、附属病院皮膚科診療部長を命ずる。
1. 中島 真人 氏に、附属第三病院脳神経外科診療部長代行を命ずる。

■大学院修了者

- 15.12.24 浅尾 啓子 武田 有啓
16.1.14 武田 有啓 大城戸 一郎 矢内原 臨
16.3.10 中村 晃士
16.3.24 上野 豊 築場 広一
16.4.14 孟 興麗 田中 圭一朗
16.4.28 遠藤 彰

■学位論文通過者

- 15.12.10 植松 海雲 上竹 慎一郎 成岡 健人
15.12.24 杉浦 健太郎 鈴木 禎 下村 達也 佐々木 知也 山根 茂雄
16.1.14 黒崎 哲也 館野 歩 佐藤 泰弘
16.1.21 塩路 理恵子 坂本 剛
16.2.12 山前 浩一郎 齋藤 隆俊
16.2.24 沼田 美和子 伊藤 達彦 中崎 薫 安部 宏
16.2.26 齋藤 祐二 中村 紫織 須永 宏 須藤 訓 大橋 元一郎
宮川 佳也
16.3.10 小池 和彦 石黒 大輔 奥田 丈二 岩谷 泰志 田中 文彦
葛田 憲道
16.3.24 橋本 博子 橋爪 敏彦 榎本 康之 植松 昌俊 会澤 亮一
新 智文
16.4.14 斎藤 健 飯田 誠
16.4.28 三谷 浩樹 池尻 真康
16.5.26 武田 博

訃報

- 1. 同窓会顧問今野亨彦先生(昭20年卒)は、12月29日逝去されました。
1. 小村 香與子 医員(腎臓・高血圧内科)は、1月1日逝去されました。
1. 同窓会熊本支部長 永田 忠寿 先生(昭22年卒)は、2月6日逝去されました。
1. 同窓会北海道支部長 齋藤 登 先生(昭30年卒)は、5月6日逝去されました。
1. 本学評議員 太田 義武 先生は、病氣療養中のところ、5月12日逝去されました。
1. 林 真智子様(附属病院栄養部栄養士)は、5月25日逝去されました。

教員(医学科)

<p>■教授 病理学 16.1.1 山口 裕 (外) 内科学 15.12.1 清水 光行 (外) 16.3.1 持尾 聡一郎 (外) 精神医学 16.4.1 中山 和彦 小児科学 16.4.1 日井 信男 (外) 皮膚科学 16.5.1 中川 秀巳 形成外科学 15.12.1 内田 満 (外) 泌尿器科学 16.4.1 瀬川 普 (外) 耳鼻咽喉科学 16.4.1 加藤 孝邦 (外)</p> <p>■特任教授 大学 16.4.1 長山 瑛 脳神経外科学 16.1.1 村山 雄一</p> <p>■客員教授 内科学 15.12.1 山田 治男 16.2.1 津久井 一平 整形外科 16.4.1 勝又 壮一</p> <p>■助教 臨床検査医学 16.4.1 鈴木 政登 DNA医学研究所 15.12.1 馬目 佳信 16.5.1 小幡 徹 (外) 佐々木 博之 (外) 分子細胞生物学 16.4.1 幡場 良明 (外) 内科学 16.4.1 西野 博一 (外) 鳥居 明 (外) 小児科学 15.12.1 堀田 秀樹 (派) 放射線医学 16.3.1 貞岡 俊一 外科学 16.2.1 吉田 和彦 形成外科学 16.1.1 松浦 慎太郎 (派) 心臓外科学 15.12.1 益子 健男 泌尿器科学 16.2.1 鈴木 正泰 (派) 16.4.1 和田 鉄郎 耳鼻咽喉科学 16.4.1 波多野 篤 リハビリテーション医学入部医学研究 16.2.1 河野 照茂 内視鏡科 16.4.1 貝瀬 満</p>	<p>■講師 大学 16.4.1 北 嘉昭 解剖学第1 16.5.1 國府田 稔 解剖学第2 16.5.1 立花 利公 生理学第2 16.5.1 草刈 洋一郎 16.5.1 豊島 裕子 病理学 16.4.1 二階堂 孝 臨床医学研究所 16.1.1 坪田 昭人 高次元医用画像工学研究所 16.5.1 服部 麻木 実験動物研究施設 15.12.1 成相 孝一 内科学 16.1.1 坪田 昭人 根本 昌実 前田 俊彦 16.2.1 河辺 朋信 16.3.1 河辺 朋信 (無) 16.4.1 鈴木 英明 新谷 稔 (無) 河辺 朋信 (非)(無) 16.5.1 平本 淳 望月 太一 松井 和隆 堀口 誠 (派) 塚村 さゆみ (派) 金江 清 (非) 山田 拓 (非) 村松 弘康 (非) 小児科学 16.5.1 柳澤 隆昭 加藤 陽子 上原 里程 (非) 放射線医学 16.5.1 尾尻 博也 整形外科 16.1.1 増井 文昭 形成外科学 16.1.1 松浦 慎太郎 (無) 泌尿器科学 16.3.1 鈴木 英訓 (派) 眼科学 15.12.1 仲泊 聡 耳鼻咽喉科学 16.1.1 鴻 信義 麻酔科学 15.12.1 三尾 寧 ■助手 生化学第2 16.3.1 渡邊 ユキノ 病理学 16.4.1 濱田 智美 微生物学第2 16.3.1 岩瀬 忠行 法医学 16.1.1 阿部 俊太郎</p>	<p>内科学 16.1.1 古谷 徹 堀口 誠 (無) 山路 朋久 吉澤 祥子 (無) 16.3.1 寺脇 博之 16.4.1 今本 諭 上竹 慎一郎 上原 良樹 大澤 浩 小野内 健司 小野田 学 坂本 剛 16.1.1 佐藤 泰弘 豊田 千純子 永崎 栄次郎 三村 秀毅 宮永 哲 山口 祐子 (無) 吉田 健 16.5.1 加藤 哲明 山口 祐子</p> <p>精神医学 16.4.1 加田 博秀 中村 晃士 16.5.1 三宮 正久 小児科学 16.4.1 布上 孝志 皮膚科学 16.1.1 伊藤 寿啓 (無) 米本 広明 16.4.1 高木 祐子 (無) 放射線医学 16.4.1 市場 文功 16.5.1 西岡 真樹子 外科学 16.1.1 朝倉 潤 (無) 井上 好央 大町 貴弘 小田 晃弘 (無) 齊藤 良太 梁井 真一郎 中林 幸夫 西川 勝則 (無) 平野 純 矢野 健太郎 (無) 山本 真司 (無) 山崎 哲資 (無) 16.4.1 桑島 成央 整形外科 16.1.1 荒川 雄一郎 上野 豊 (無) 鈴木 貴 (無) 田邊 登崇 (無) 為貝 秀明 16.4.1 吉田 衛 脳神経外科学 16.4.1 佐口 隆之 野中 雄一郎 形成外科学 16.1.1 赤松 久子 大村 愉己 小林 正大 林 淳也 (無)</p>	<p>心臓外科学 16.4.1 黄 義浩 産婦人科学 15.12.1 齊藤 隆和 (無) 16.1.1 齊藤 隆和 泌尿器科学 15.12.1 斑目 旬 (無) 眼科学 16.4.1 葉山 章子 16.1.1 滝本 正子 (無) 中村 曜祐 増田 洋一郎</p> <p>耳鼻咽喉科学 16.1.1 重田 泰史 16.4.1 吉田 隆一 リハビリテーション医学 16.4.1 西 将則 齒科 16.4.1 西村 康</p> <p>■医員 内科学 16.4.1 遠藤 聡 豊川 泰彦 益井 芳文 吉村 和修</p> <p>小児科学 16.2.1 野崎 和之 16.4.1 大坪 主税 放射線医学 16.4.1 氏田 万寿夫 16.5.1 福光 延吉 外科学 16.4.1 石山 哲 大町 貴弘 脳神経外科学 16.3.1 佐口 隆之 泌尿器科学 15.12.1 長谷川 太郎 前田 重孝 耳鼻咽喉科学 16.1.1 吉田 隆一 齒科 16.4.1 玉井 和樹</p> <p>■研究生 内科学 16.4.1 小林 英之 精神医学 16.5.1 杉村 共英</p> <p>■大学院単位取得者 遺伝子治療研究部門 16.4.1 孟 興麗 放射線医学 16.4.1 西岡 真樹子</p>
---	---	--	---

(無)=無給、(派)=派遣中、(外)=定員外、(非)=非常勤、院取=大学院単位取得者

出向

■助教
16.1.1 健康医学センター(本院診療員・講師) 前田 俊彦 内科学

■講師
16.1.1 病院病理部(本院・診療医員) 鷹橋 浩幸 病理学
16.4.1 輸血部(柏病院・診療部長・講師) 増岡 秀一 内科学

■助手
15.10.1 救急部(柏病院・診療医員) 村上 泰生 内科学

出向解除

■助手
16.1.1 健康医学センター(本院) 吉澤 祥子 内科学
救急部(本院) 矢野 健太郎 外科学
救急部(本院) 藤田 明彦 外科学
救急部(柏病院) 田代 健一 外科学
病院病理部(本院) 原田 徹 病理学
16.4.1 救急部(本院) 山尾 瑞奈 内科学
救急部(本院) 長田 正久 内科学

派遣

麻生病院
16.1.1 助手 山本 真司 外科学

厚木市立病院
16.3.1 助手(無) 長谷川 俊男 内科学
16.4.1 助手(無) 橋本 浩一 内科学
柳田 聡 産婦人科学
石渡 巖 産婦人科学

英国ロンドン日本クラブ診療所
16.4.1 講師 林 良寛 小児科学

大洗海岸
16.1.1 医員 田村 俊一 内科学

葛飾赤十字産院
16.5.1 医員 布山 裕一 小児科学

神奈川県衛生看護専門学校附属病院
16.4.1 助手 高木 祐子 皮膚科学
助手(無) 内田 亮 耳鼻咽喉科学
医員 堀野 哲也 内科学

神奈川リハビリテーション病院
16.1.1 助手 上野 豊 整形外科
16.4.1 医員 丸山 之雄 内科学
助手(無) 久米川 浩一 眼科学

癌研究会附属病院
16.1.1 助手 小田 晃弘 外科学
16.4.1 助手(無) 佐野 公司 内科学

国立相模原病院
16.4.1 助手 小俣 貴嗣 小児科学

国立成育医療センター
16.4.1 助手(無) 新家 秀 産婦人科学
鈴木 啓太郎 産婦人科学

国立精神・神経センター武蔵病院
16.4.1 医員 小澤 律子 内科学

国立西埼玉中央病院
16.1.1 助手 朝倉 潤 外科学
16.4.1 助手(無) 岩崎 幸治 整形外科
加藤 武 整形外科

16.5.1 助手(無) 大塚 由美 内科学

埼玉県立循環器・呼吸器病センター
16.4.1 医員 太田 正人 内科学

16.1.1 救急部(第三病院・診療医員・助手) 瀧川 和俊 内科学
16.4.1 救急部(柏病院・准診療医員・助手) 林 武徳 内科学
健康医学センター(本院診療員・助手) 鈴木 武志 内視鏡科

■助手(無給)

16.4.1 救急部(柏病院・診療医員・助手) 大谷 圭 内科学

■医員

16.4.1 救急部(柏病院・診療医員・助手) 三村 秀毅 内科学

救急部(柏病院) 村上 泰生 内科学
救急部(柏病院) 横山 正人 内科学
病院病理部(本院) 金網 友木子 病理学

■医員

16.4.1 救急部(本院) 宮田 秀一 内科学
内視鏡部(青戸病院) 中村 能人 外科学

■専攻生

16.4.1 救急部(柏病院) 齋藤 晃 内科学

派遣解除

麻生病院
16.1.1 講師(派) 中林 幸夫 外科学

厚木市立病院
16.1.1 助手(無) 荒川 雄一郎 整形外科
中村 曜祐 眼科学
16.4.1 医員 上竹 慎一郎 内科学
橋本 朋子 産婦人科学

英国ロンドン日本クラブ診療所
16.4.1 助手 小林 尚明 小児科学

神奈川リハビリテーション病院
16.1.1 助手(無) 為貝 秀明 整形外科

16.4.1 助手(無) 三沢 昭彦 産婦人科学
医員 柴山 健理 内科学
小澤 真帆 産婦人科学

川室記念病院
16.4.1 医員 品川 俊一郎 精神医学

癌研究会附属病院
16.1.1 助手(無) 齊藤 良太 外科学
助手(無) 平野 純 外科学
16.4.1 医員 永崎 栄次郎 内科学

衣笠病院
16.4.1 医員 河野 通康 内科学

国立佐倉病院
16.3.1 助手(無) 長谷川 俊男 内科学
医員 寺脇 博之 内科学
16.4.1 助手 赤司 賢一 小児科学

国立成育医療センター
16.4.1 助手 和田 誠司 産婦人科学

国立成育医療センター
16.4.1 医員 尾見 裕子 産婦人科学

国立西埼玉中央病院
16.4.1 助手 御厨 裕治 泌尿器科学
助手(無) 阿部 和弘 泌尿器科学
16.5.1 助手(無) 岡崎 史子 内科学

(無)=無給、(派)=派遣中、(外)=定員外、(非)=非常勤、院取=大学院単位取得者

国立療養所東宇都宮病院

- 16.1.1 助手(無) 井上 好央 外科学
16.4.1 医員 原 弘道 内科学
- 埼玉県立循環器・呼吸器センター
16.4.1 医員 小野田 学 内科学
- 埼玉県立小児医療センター
16.1.1 助手(無) 増田 洋一郎 眼科学
16.4.1 医員 黄 義浩 心臓外科学
- 社会保険大宮総合病院
16.1.1 助教授(派) 前田 俊彦 内科学
助手(無) 古谷 徹 内科学
16.4.1 助手 北原 拓也 内科学
医員 伊藤 洋太 内科学
- 社会保険新宿健診センター
16.1.1 医員 林 知子 内科学
- 開病院
16.1.1 助手(無) 大町 貴弘 外科学
16.4.1 医員 中江 佐一郎 内科学
- 全日本空輸
16.5.1 医員 大久保 景子 内科学
- 総武病院
16.4.1 助手 真鍋 貴子 精神医学
- 東京厚生年金病院
16.1.1 助手(無) 小林 正大 形成外科学
重田 泰史 耳鼻咽喉科学
- 東京専売病院
16.4.1 助手 大谷 圭 内科学
- とちぎリハビリテーションセンター
16.1.1 助手(無) 鈴木 貴 整形外科
16.4.1 医員 西 将則 リハビリテーション学
- 虎ノ門病院
16.1.1 助手(無) 坪田 昭人 内科学
- 都立大塚病院
16.4.1 助手(無) 山崎 知克 小児科学
- 都立豊島病院
16.1.1 助手(無) 鈴木 禎 リハビリテーション学
- 富士市立中央病院
16.1.1 助手(無) 米本 広明 皮膚科学
赤松 久子 形成外科学
16.4.1 講師(無) 猫橋 俊文 内科学
助手 小此木 英男 内科学
林 博 産婦人科学
小林 裕美子 産婦人科学
成尾 孝一郎 放射線医学
助手(無) 小俣 貴嗣 小児科学
医員 金井 英一 内科学
三留 博子 内科学
河野 優 内科学
- 専攻生
町田市民病院
16.1.1 助手(無) 林 博之 形成外科学
梁井 真一郎 外科学
大村 愉己 形成外科学
16.4.1 助手 望月 順子 内科学
助手 石塚 康夫 産婦人科学
医員 細谷 工 内科学
今本 論 内科学
専攻生 山本 亮

医学教育研究室担当(専任)

- 16.4.1 教授(外) 福島 統 解剖学第1
木村 直史 薬理学第2

医学教育研究室担当(兼任)

- 16.4.1 助教授(外) 伊坪 真理子 内科学
尾上 尚志 脳神経外科学
川村 哲也 内科学
16.4.1 助教授 柏木 秀幸 外科学
鷹橋 浩幸 病理学
佐々木 英樹 内科学
松島 雅人 内科学
古谷 伸之 内科学
榎山 年和 外科学
畝村 泰樹 外科学
16.4.1 助手 石橋 由明 外科学

平成16年度講師(西新橋校)(非常勤)

- 16.4.1 生理学第1 井元 敏明
生理学第2 田中 悦子
生理学第2 小西 真人
生理学第2 遠藤 陽一
薬理学第1 井上 和秀
病理学 古里 征國
病理学 高崎 健
環境保健医学 鈴木 和子
環境保健医学 裏田 和夫
環境保健医学 清水 恵一郎
環境保健医学 大黒 寛
環境保健医学 小川 康恭
環境保健医学 瀬上 清貴
環境保健医学 猿田 克年
熱帯医学 濱田 篤郎
臨床検査医学 柴崎 敏昭
臨床検査医学 大山 典明
総合医科学研究センター 吉村 邦彦
ME研究室 杉田 洋一
薬物治療学研究室 山本 純子
内科学 植松 幹雄
内科学 鬼澤 信明
内科学 園生 雅弘
内科学 酒井 聡一
内科学 橋本 隆男
内科学 中尾 俊之
内科学 美田 誠二
内科学 大江 裕一郎
内科学 中西 成元
内科学 小西 晃
内科学 野間 健司
内科学 渡辺 久之
内科学 溝上 恒男
内科学 藤本 哲
内科学 松越 哲
内科学 渡辺 嘉久
内科学 丸山 晋
精神医学 上別府 圭子
精神医学 高橋 敏治
精神医学 繁田 雅弘
精神医学 和田 紀之
小児科学 井原 成男
小児科学 大野 勉
小児科学 所 敏治
小児科学 内山 浩志
小児科学 大矢 幸弘
皮膚科学 伊藤 義彦
皮膚科学 三原 一郎
皮膚科学 戸澤 孝之
皮膚科学 澤田 俊一

- 放射線医学 牧野 元治
放射線医学 藍田 浩
放射線医学 高山 誠
放射線医学 青柳 裕
放射線医学 田中 宏
放射線医学 石井 千佳子
放射線医学 後藤 英介
放射線医学 双津 正博
放射線医学 小森 成
放射線医学 江本 秀斗
放射線医学 赤阪 雄一郎
放射線医学 五十嵐 宏
放射線医学 上岡 康雄
放射線医学 佐野 真一
放射線医学 山口 展正
放射線医学 金子 省三
放射線医学 小沢 仁
放射線医学 井上 秀明
放射線医学 上出 洋介
放射線医学 部坂 弘彦
放射線医学 矢部 武
放射線医学 八代 利伸
放射線医学 香川 草平
放射線医学 益子 健康
放射線医学 鳥海 和弘
放射線医学 田中 正史
放射線医学 廖 英和
放射線医学 渡邊 修
放射線医学 杉本 淳
放射線医学 岩本 昌平
放射線医学 白川 正順
放射線医学 川村 統男
放射線医学 長田 広司
放射線医学 那須 元信

平成16年度講師(国領校)(非常勤)

- 16.4.1 社会学 松尾 精文
社会学 高橋 流里子
社会学 村川 浩一
社会学 小坂 國繼
社会学 龜山 純生
社会学 小岩 信竹
社会学 萩原 伸次郎
社会学 大田 信良
社会学 福田 誠治
社会学 佐伯 晴子
社会学 三原 祥子
社会学 渡辺 章子
社会学 武井 博美
社会学 跡部 智
社会学 東方 和子
社会学 M.E.カミンズ
社会学 阿部 潤
社会学 D.B.スチュワート
社会学 J・スーリア
社会学 コリン・スキーツ
社会学 園吉 初美
社会学 ロン・レイ
社会学 D.A.ウェイド
社会学 M.オールダー
社会学 S.D.プロバー
社会学 鈴木 克己
社会学 武藤 陽子
社会学 稲葉 延子
社会学 北垣 潔

- 医学史 齋藤 公一
政治学 藏方 宏昌
経済学 早川 純貴
社会学 長谷川 信
現代社会論 清水 浩一
日本文学 森川 貞夫
日本語教育 安田 孝
源 祥子

平成16年度助手(国領校)(非常勤)

- 生命基礎科学実習(生物系) 塚元 葉子
生命基礎科学実習(化学系) 伊藤 慎
生命基礎科学実習(物理系) 柴 文
高津 博勝
神谷 好郎
菊地 大輔
的場 史郎

依願退職

- 16.3.31 松井 道彦 大学

助教授

- 16.3.31 成宮 徳親 内視鏡科

講師

- 16.3.31 國府田 稔 解剖学第1

講師(派遣中)

- 16.2.29 友成 治夫 内科学
16.3.31 石田 裕一郎 内科学
菅野 道雄 外科学
宮本 栄一 外科学
16.4.30 渡辺 正光 外科学

講師(無給)

- 15.12.31 金井 達也 内科学
小林 一成 リハビリテーション学
16.3.31 山岸 二郎 放射線医学

講師(非常勤)

- 16.4.30 戸澤 孝之 皮膚科学

助手

- 15.12.31 富川 盛光 小児科学
宇野 真二 内科学
佐伯 知行 外科学
緒方 直人 外科学
土橋 達夫 眼科学
柳沼 昌也 眼科学
佐藤 英明 耳鼻咽喉科学
渡邊 宏樹 歯科
16.3.31 赤堀 正和 解剖学第2
16.4.30 福味 禎子 内科学
岩元 誠 精神医学

助手(無給)

- 15.12.31 小川 龍之介 外科学
16.2.29 鈴木 健夫 精神医学
鈴木 守 精神医学
笹原 留美子 精神医学
16.3.31 青木 功雄 心臓外科学
伊部 美葉 皮膚科学
杉山 健 泌尿器科
塩塚 重正 産婦人科学
星野 寛倫 リハビリテーション学
16.4.30 中尾 誠利 解剖学第1

医員

- 15.12.31 山口 賢 内科学
早川 祐子 皮膚科学
高瀬 聡子 皮膚科学
16.2.29 大野 由美子 眼科学
本間 栄作 精神医学
高木 正一 精神医学
16.3.31 西尾 慶之 内科学
関田 徹 内科学
岩淵 浩之 産婦人科学
北村 容子 内視鏡科
16.4.30 林 共英 精神医学
杉村 美紀 皮膚科学
中井 太一 歯科

専攻生

- 16.3.31 横野 彰 微生物第1
中森 省吾 微生物第1
中村 素行 微生物第1

教員(看護学科)

- 老年看護学
16.4.1 池田 千賀子

助手

- 小児看護学
16.4.1 花澤 雪子

定年退職

教授

- 16.3.31 牛島 定信 精神医学
戸田 剛太郎 内科学
天木 嘉清 麻酔科学
大石 幸彦 大学

教授(定員外)

- 16.3.31 真柄 直郎 臨床検査医学
16.3.31 小杉 一夫 解剖学第1
木村 靖夫 内科学

助教授(派遣中)

- 16.3.31 伊藤 良彌 産婦人科学

講師

- 16.3.31 長山 瑛 外科学

専攻生

- 16.3.31 北島 和子 微生物学第1

死亡解職

医員

- 16.1.1 小村 香與子 内科学

懲戒解雇

助教授

- 15.12.31 大西 哲郎 泌尿器科学

助手(無給)

- 15.12.31 班目 旬 泌尿器科学

医員

- 15.12.31 長谷川 太郎 泌尿器科学

教授

- 16.3.26 高橋 弘 臨床医学研究所

定年退職

教授

- 基礎看護学2
16.3.31 住吉 蝶子

レジデント

助手

- 内科
16.3.1 飯田 里菜子 (無)
16.4.1 金子 有吾
久保田 健之

老年看護学

- 小室 朋子
佐伯 千里
坂本 昌也
清水 昭宏
高原 映崇

田中 賢

- 永妻 啓介
日下 正久
藤本 啓
松平 浩

森本 彩
山岸 弘子
湯川 豊一
165.1 加藤 順一郎
田中 寿一
小児科
164.1 飯倉 克人
大谷 ゆう子
大山 亘
岡野 恵里香
折津 友隆
平野 大志
西野 多聞
横井 貴之
河野 淳子
165.1 皮膚科
164.1 藁場 広一
16.1.1 石氏 陽三 (無)
大原 夕佳 (無)
小林 康隆
佐々木 一
外科
16.4.1 坂本 太郎
谷島 雄一郎
野秋 明多
野呂 拓史
阿南 匡
安藤 精貴 (無)
伊藤 隆介 (無)
小林 克敏
渡部 篤史
整形外科
16.1.1 笠間 憲太郎 (無)
伊藤 吉賢
梅田 麻衣子
中神 祐介
脳神経外科
16.4.1 梶原 一輝
関 厚二郎
土橋 久士
形成外科
16.1.1 鈴木 文恵 (無)
西岡 弘記
北村 珠希
眼科
16.1.1 飯野 弘之 (無)
耳鼻咽喉科
16.1.1 久納 浄 (無)
鈴木 理恵
16.4.1 鎌野 悠子
露無 松里

泌尿器科
16.1.1 小出 晴久
山本 順啓 (無)
16.4.1 各務 裕
水尾 敏彦
山口 泰広
心臓外科
16.4.1 中村 賢
内視鏡科
15.12.1 安達 世
16.4.1 炭山 和毅
産婦人科
16.4.1 飯田 泰志
肥留間 理枝子
16.5.1 永田 知映
矢内原 隆 (無)
麻酔科
16.4.1 内海 功
河村 優子
木田 康太郎
小崎 佑吾
中川 清隆
甫母 章太郎
平林 万紀彦
松田 苑生
湯本 正寿
■医員
内科
16.4.1 伊藤 朝子
伊藤 秀一
井上 康憲
岩上 慎也
大本 周作
小菅 玄晴
小林 賛光
櫻井 俊之
佐藤 陽子
末次 靖子
関根 威
銭谷 平
瀧 謙太郎
徳田 道史
中尾 正嗣
中山 知子
野尻 さと子
廣濱 浩司
古谷 英行
松本 啓
山田 高広
米田 紘一郎
16.5.1 三戸部 慈実
小林 達之助

精神医学
16.4.1 青木 亮
秋山 恵一
遠藤 裕介
沖野 慎治
小林 伸行
谷井 一夫
小児科
16.4.1 河野 淳子
高木 健
外科
16.4.1 金子 健二郎
神尾 麻紀子
北川 和男
共田 光裕
藤本 雅史
星野 真人
整形外科
16.4.1 奥津 裕也
酒井 伸英
坂本 麻美
林 大輝
宮水 威彦
劉 嵩
劉 啓正
形成外科
16.4.1 酒井 新介
眼科
16.4.1 大熊 康弘
岡野 喜一郎
堀口 浩史
産婦人科
16.4.1 永田 知映
耳鼻咽喉科
16.4.1 中山 次久
吉田 正弘
16.5.1 岡野 晋
リハビリテーション医学
16.4.1 小林 健太郎
内視鏡科
16.4.1 玉井 尚人
月永 真太郎
松永 和夫
■大学院単位取得者
内科
16.4.1 栗山 源慎
山崎 弘二
外科
16.4.1 田中 圭一朗

出向
■助手
16.1.1 救急部(本院) 山尾 瑞奈 内科
救急部(青戸病院) 小菅 誠 外科
内視鏡部(本院) 道林 隆行 外科
内視鏡部(青戸病院) 中村 能人 外科
16.4.1 麻酔部(第三病院) 梅田 麻衣子 整形外科
麻酔部(第三病院) 関 厚二郎 脳神経外科
麻酔部(柏病院) 露無 松里 耳鼻咽喉科

■医員
16.1.1 救急部(青戸病院) 宮田 秀一 内科
救急部(柏病院) 松本 晶 外科
大熊 誠尚 外科
16.4.1 救急部(本院) 佐伯 千里 内科
救急部(本院) 高原 映崇 内科
■大学院単位取得者
16.4.1 救急部(本院) 藤本 啓 内科

出向解除
■助手
15.10.1 救急部(柏病院) 仙石 鎌平 内科
内視鏡部(青戸病院) 林 武徳 外科
16.1.1 麻酔部(青戸病院) 小笠原 幹英 眼科
麻酔部(柏病院) 長尾 哲兵 耳鼻咽喉科
救急部(本院) 飯沼 敏明 内科
救急部(本院) 遠藤 聡 内科
救急部(柏病院) 野秋 明多 外科
内視鏡部(本院) 山崎 一也 外科

■医員
16.1.1 麻酔部(本院) 阿南 匡 外科
16.4.1 麻酔部(本院) 松井 道大 心臓外科
派遣
厚木市立病院
16.1.1 助手 飯野 弘之 眼科
笠間 憲太郎 整形外科
16.4.1 助手(無) 飯沼 敏明 内科
医員 小田原 俊一 内科
岩手県立遠野病院
16.1.1 助手 久納 浄 耳鼻咽喉科
太田総合病院
16.1.1 医員 小島 純也 耳鼻咽喉科
大森赤十字病院
16.4.1 医員 横山 洋紀 内科
神奈川県衛生看護専門学校附属病院
16.4.1 医員 清水 昭博 内科
柳沼 樹宏 内科
高木 健 小児科
神奈川リハビリテーション病院
16.4.1 医員 林 大輝 整形外科
川口市立医療センター
16.1.1 助手 伊藤 隆介 外科
16.4.1 助手(無) 坪井 伸夫 内科
医員 金澤 康 内科
山口 いず玲 内科
川崎市立川崎病院
16.5.1 医員 共田 光裕 外科
癌研究会附属病院
16.1.1 助手(無) 平松 美也子 外科
衣笠病院
16.4.1 医員 山城 健二 内科
国立成育医療センター
16.4.1 助手(無) 青田 明子 小児科
医員 小林 剛 内科
田中 圭一郎 外科
国立精神・神経センター武蔵病院
16.4.1 医員 村上 善勇 内科
国立西埼玉中央病院
16.1.1 助手 石氏 陽三 皮膚科
久保 恭仁 内科
矢吹 辰男 内科
宮永 威彦 整形外科
国立病院東京医療センター
16.4.1 医員 中田 耕太郎 内科
国立療養所東京病院
16.4.1 医員 松井 芳憲 内科
国立療養所東都宮病院
16.4.1 医員 栗山 源慎 内科
済生会中央病院
16.3.1 助手 飯田 里菜子 内科
16.4.1 医員 小林 政司 内科
埼玉県立循環器・呼吸器病センター
16.4.1 医員 寺尾 吉生 内科
藤井 拓明 内科
宮原 庸介 内科
埼玉県立小児医療センター
16.5.1 助手(無) 平野 大志 小児科
佐久総合病院
16.4.1 助手(無) 篠原 玄 心臓外科
社会保険大宮総合病院
16.1.1 助手 大原 夕佳 皮膚科
16.4.1 助手(無) 三宅 亮 外科

社会保険桜ヶ丘総合病院
16.1.1 助手 安藤 精貴 外科
聖隷三方原病院
16.4.1 医員 鯨岡 大輔 内科
聖路加国際病院
16.1.1 医員 澤田 弘毅 耳鼻咽喉科
東京厚生年金病院
16.1.1 助手(無) 石井 彩子 耳鼻咽喉科
東京専売病院
16.4.1 大専職(職者) 玉城 成雄 内科
東京通信病院
16.4.1 医員 志村 恭子 内科
都職三楽病院
16.4.1 助手(無) 石黒 晴哉 内科
虎ノ門病院分院
16.4.1 医員 中野 真範 内科
都立大塚病院
16.4.1 医員 小林 健太郎 リハビリテーション
沼津市立病院
16.4.1 医員 塚田 有紀子 内科
福井 亮 内科
藤沢市民病院
16.4.1 助手(無) 藍田 浩一 放射線医学
富士市立中央病院
16.1.1 助手 鈴木 文恵 形成外科
山本 順啓 泌尿器科
16.4.1 助手(無) 貫則 産婦人科
石澤 将 内科
伊藤 秀之 内科
神崎 恭子 内科
阪口 真之 内科
山城 秀樹 内科
河野 淳子 小児科
奥津 裕也 整形外科
益子病院
16.4.1 医員 玉井 尚人 内視鏡科
派遣解除
岩手県立遠野病院
16.1.1 医員 小島 純也 耳鼻咽喉科
太田総合病院
16.1.1 医員 澤田 弘毅 耳鼻咽喉科
大森赤十字病院
16.4.1 医員 清水 昭宏 内科
神奈川県衛生看護専門学校附属病院
16.4.1 医員 山本 泉 内科
川口市立医療センター
16.1.1 助手(無) 平松 美也子 外科
永妻 啓介 内科
日下 正久 内科
川崎市立川崎病院
16.5.1 医員 満山 喜宣 外科
衣笠病院
16.4.1 医員 湯川 豊一 内科
国立国際医療センター
16.4.1 医員 高原 映崇 内科
国立埼玉病院
16.4.1 医員 小山 達也 内科
国立相模原病院
16.4.1 医員 松平 浩 内科
国立精神・神経センター武蔵病院
16.4.1 医員 磯部 建夫 内科

国立西埼玉中央病院
16.1.1 助手(無) 小林 克敏 外科
佐々木 一 皮膚科
16.4.1 医員 小室 朋子 内科
国立病院東京医療センター
16.4.1 医員 田中 寿一 内科
済生会中央病院
16.4.1 大専職(職者) 山岸 弘子 内科
埼玉県立循環器・呼吸器病センター
16.4.1 医員 久保田 健之 内科
滝沢 信一郎 内科
社会保険大宮総合病院
16.1.1 助手(無) 小林 康隆 皮膚科
16.4.1 大専職(職者) 藤本 啓 内科
聖隷三方原病院
16.4.1 医員 小川 和男 内科
聖路加国際病院
16.1.1 助手(無) 石井 彩子 耳鼻咽喉科
東京厚生年金病院
16.1.1 医員 西岡 弘記 形成外科
東京通信病院
16.4.1 医員 阪口 真之 内科
都職三楽病院
16.4.1 医員 田中 賢 内科
虎ノ門病院分院
16.4.1 医員 佐伯 千里 内科
都立大塚病院
16.3.1 医員 岡野 恵里香 小児科
沼津市立病院
16.4.1 医員 加藤 順一郎 内科
富士市立中央病院
16.1.1 助手(無) 小出 晴久 泌尿器科
阿南 匡 外科
医員 林 洋介 内科
松井 芳憲 内科
森本 彩 内科
河野 淳子 小児科
町田市民病院
16.4.1 助手(無) 三宅 亮 外科
助手 小高 文徳 精神医学
医員 金子 有吾 内科
安達 世 内視鏡科
松島クリニック
15.12.1 医員 安達 世 内視鏡科
依頼解職
■助手
15.12.31 小田 華子 産婦人科
木戸 雅人 泌尿器科
16.2.29 高島 伸之介 脳神経外科
■助手(無)
16.3.31 村山 明子 内科
■医員
16.3.31 三浦 琢磨 内科
佐々木 英之 内科
岩屋 聖子 皮膚科

(無)=無給、(派)=派遣中、(外)=定員外、(非)=非常勤、院単位取得=大学院単位取得者

職員

新採用

法人事務局			
16.4.1	渉外室長 事務員	総務部	横内 昭光
大学			
15.12.1	研究補助員	生理学講座第2	千葉 聖子
本院			
15.9.1	診療技術員	耳鼻咽喉科	澤田 久美子
16.4.1	看護師	看護部	城野 昭美
	看護師	看護部	廣瀬 美由紀
	看護師	看護部	林田 聖子
青戸病院			
16.4.1	看護師	看護部	鈴木 めぐみ

昇格・降格・役職任免

情報広報室			
16.4.1	7等級 (主務)	事務員	システム課 南波 勉
	5等級 (副主務)	事務員	システム課 土岐 晃一
		事務員	システム課 木村 茂正
法人事務局			
16.4.1	10等級 (参事)	部長	人事部 小寺 嵩士
		主事	人事部 鈴木 命
		財務課長	財務部 山崎 日出夫
	9等級 (副参事)	課長	人事部 秋元 文夫
		課長	広報課 石渡 憲一
		課長心得	人事部 前田 利美
		主事	総務課 花井 博
		課長	学事課 高橋 実貴雄
	8等級 (副参事)	課長業務代行	総務課 岡田 登幸
		課長業務代行	システム課 中村 勝
		課長補佐	システム課 網川 ルリ子
		課長補佐	システム課 能勢 安彦
		課長補佐	システム課 加藤 一人
		副主事	財務課 吉岡 康夫
		副主事	財務課 田中 繁美
		課長補佐	施設用度課 高田 弘之
		副主事	施設用度課 塚本 純一郎
	7等級 (主務)	課長	財務課 大泉 壽郎
		係長	事務員 総務課 相曾 好司郎
			事務員 施設用度課 井上 徹
	5等級 (副主務)	事務員	給与課 金子 文成
		事務員	総務課 福留 賢一
	4等級 (副主務)	事務員	経理課 作本 紀子
		主任	整備員 施設用度課 保科 正人
		整備員	施設用度課 福原 トミエ
		事務員	人事課 先川 久美子
		主任	電話交換手 総務課 佐久間 カツエ
		看護教員	慈恵看護専門学校 吉田 恵美

大学			
16.4.1	10等級 (参事)	部長	学事課 西澤 勇
	9等級 (副参事)	課長	学事課 渋谷 守
	8等級 (副参事)	課長	学事課 渋谷 守

課長補佐	事務員	学事課	河村 稔明
課長補佐	事務員	学事課	大黒 博之
課長業務代行	事務員	研究支援課	横山 明能
7等級 (主務)			
係長	事務員	学事課	飛内 峰和
	事務員	学事課	山田 賢司
6等級 (主務)			
	事務員	研究支援課	相澤 敏之
5等級 (副主務)			
	研究技術員	医学情報センター	小久保 直
4等級 (副主務)			
	司書	医学情報センター	古関 美津子
	司書	医学情報センター	山田 知子

本院			
16.4.1	10等級 (参事)	部長	事務部 今出 進章
		部長	薬剤部 菊野 史豊
	9等級 (副参事)	副看護部長	看護部 高橋 則子
		事務長	健康医学センター 尾立 裕三
	8等級 (副参事)	技師長業務代行	理学療法士 リハビリテーション科 佐藤 信一
		副主事	栄養士 栄養部 矢野 得郎
		課長補佐	事務員 管理課 種田 誠
		副主事	学事課 管理課 宮崎 栄一
		課長業務代行	事務員 管理課 松水 正樹
		副主事	事務員 業務課 石川 次男
		技師長補佐	臨床検査技師 施設用度課 塚本 純一郎
		課長補佐	薬剤師 病院病理部 佐藤 俊
	7等級 (主務)	主査	看護部 医療安全管理室 島山 まり子
			看護部 医療安全管理室 時田 聡
		師長	看護部 看護部 真柄 久美子
		師長	看護部 看護部 工藤 教子
		師長	看護部 看護部 秋永 かおり
	6等級 (主務)	主任	事務員 管理課 高田 浩志
		主任	事務員 業務課 中村 幸生
		主査	看護部 医療安全管理室 中川 みゆき
		主査	看護部 医療安全管理室 加藤 健
		主任	調理師 栄養部 関根 英樹
		師長	看護部 看護部 河内山 祐子
		師長	看護部 看護部 西城 美恵子
		師長	看護部 看護部 鈴木 珠美
		師長代理	看護部 看護部 杉田 千代子
		師長代理	看護部 看護部 岩尾 亜希子
		師長代理	看護部 看護部 石田 和代
		師長代理	看護部 看護部 和気 江利子
			看護部 看護部 堀 友子
			看護部 看護部 矢崎 智恵子
			看護部 看護部 泉山 安子
			看護部 看護部 市場 雅代
			臨床検査技師 病院病理部 戸田 敏久
		研究補助員	病院病理部 櫻井 和也
		薬剤師	薬剤部 布川 昌子
		臨床検査技師	輸血部 山崎 恵美
		臨床工学技士	臨床工学部 神子 元一
		臨床工学技士	臨床工学部 石井 宣大
	5等級 (副主務)	主任	事務員 晴海トリトンクリニック 酒井 洋人
			臨床検査技師 晴海トリトンクリニック 春藤 直子
		主任	看護部 看護部 戸澤 智恵
		主任	看護部 看護部 三浦 俊江

主任	看護師	看護部	八巻 愛音
主任	看護師	看護部	室田 桂子
主任	看護師	看護部	小松 雅子
主任	看護師	看護部	鈴木 和香子
主任	看護師	看護部	樋口 由枝
主任	看護師	看護部	松村 真紀
	看護師	看護部	仲里 香津美
	看護師	看護部	梅木 妙
	看護師	看護部	宮 亜矢子
	看護師	看護部	八木 久美子
	看護師	看護部	倉田 薫
	看護師	看護部	熊谷 恵美子
	看護師	看護部	寺田 美香
	看護師	看護部	東 佐知子
	看護師	看護部	柏木 紀子
	看護師	看護部	清政 満枝
	看護師	看護部	染谷 典子
	看護師	看護部	星野 真代
	看護師	看護部	杉田 優子
	看護師	看護部	前田 さおり
	臨床検査技師	健康医学センター	一里塚 敏子
	臨床検査技師	中央検査部	堀口 久孝
	臨床検査技師	中央検査部	芳村 浩明
	臨床心理士	精神神経科	川上 智以子
	事務員	業務課	西内 麻子
	臨床検査技師	中央検査部	今井 美保子
	臨床検査技師	中央検査部	湯本 春野
	臨床検査技師	中央検査部	戸口 恵
	臨床検査技師	病院病理部	池田 奈麻子
	臨床検査技師	輸血部	堀 淑恵
	診療放射線技師	放射線部	谷口 修一
	診療放射線技師	放射線部	北川 久
	薬剤師	薬剤部	安藤 紀子
	薬剤師	薬剤部	石川 陽子
	薬剤師	薬剤部	高田 睦美
	臨床工学技士	臨床工学部	安藤 理香
	理学療法士	リハビリテーション科	大澤 智恵子
	看護師	看護部	田口 敦子
	看護師	看護部	浅野 友紀
	看護師	看護部	山田 敦子
	看護師	看護部	野鳥 咲子
	看護師	看護部	長野 恵美子
	事務員	看護部	渡部 由美子
	事務員	看護部	竹崎 陽子
	事務員	看護部	後藤 明子
	事務員	看護部	鈴木 恵美子
	看護師	看護部	平川 里咲
	看護師	看護部	堀口 三由紀
	看護師	看護部	相馬 智恵
	看護師	看護部	岩井 香重子
	看護師	看護部	大和谷 真奈美
	看護師	看護部	伊藤 美樹
	看護師	看護部	佐藤 聡子
	看護師	看護部	末平 由紀子
	看護師	看護部	立川 加奈子
	看護師	看護部	渡邊 千穂
	看護師	看護部	熊谷 綾子
	看護師	看護部	有村 靖代
	看護師	看護部	石川 美葉子
	看護師	看護部	小坂 裕佳子
	看護師	看護部	敷 香織
	看護師	看護部	森 裕子
	看護師	看護部	谷口 希代子
	看護師	看護部	荒川 龍子
	看護師	看護部	板垣 貴子

看護師	看護部	稲村 夕紀子	
看護師	看護部	小笠原 愛	
看護師	看護部	川下 真由子	
看護師	看護部	武澤 あれい	
看護師	看護部	森 佳子	
看護師	看護部	圓谷 実喜	
看護師	看護部	鎌田 真由美	
看護師	看護部	高橋 綾子	
看護師	看護部	鶴岡 志乃	
看護師	看護部	福田 雅世	
青戸病院			
16.4.1	9等級 (副参事)	事務員	丹羽 克巳
	課長	事務部 管理課	直江 利夫
	8等級 (副参事)	課長業務代行	事務員 井出 晴夫
		課長補佐	事務員 渡井 光
		事務長補佐	事務員 松田 恭治
		技師長業務代行	臨床検査技師 中央検査部 平井 進
		課長業務代行	栄養士 栄養部 林 進
		副看護部長業務代行	看護部 看護部 小船 八千代
	7等級 (主務)	師長 (管理)	看護部 看護部 原 桂
	係長	事務員	管理課 高山 利幸
	係長	薬剤師	薬剤部 金子 昌弘
	6等級 (主務)	主任	事務員 星野 洋二
		主任	薬剤師 丸山 あけみ
		師長	看護部 渡辺 ゆかり
		師長	看護部 前田 加代子
		師長	看護部 高畑 むつみ
		師長	看護部 二ノ宮 菜穂子
	5等級 (副主務)	主任	事務員 管理課 星野 道雄
		主任	臨床検査技師 病院病理部 春間 節子
		主任	看護部 看護部 並木 佳世
		主任	看護部 看護部 吉川 由美子
		主任	看護部 看護部 稲葉 雅代
		主任	看護部 看護部 砂川 知香子
		主任	看護部 看護部 菅原 早百合
	4等級 (副主務)	主任	事務員 業務課 池田 真理
		主任	事務員 業務課 近藤 洋
		主任	事務員 事務部ソーシャルワーカー室 深谷 直子
		主任	調理師 栄養部 渋谷 逸美
		主任	臨床検査技師 中央検査部 堀口 新悟
		主任	臨床検査技師 中央検査部 河合 昭人
		主任	臨床検査技師 病院病理部 三角 珠代
		主任	診療放射線技師 放射線部 井手 直子
		主任	薬剤師 薬剤部 倉橋 太郎
		主任	薬剤師 薬剤部 櫻田 太郎
		主任	看護師 看護部 西村 弥生
		主任	看護師 看護部 小山田 千秋
		主任	看護師 看護部 半谷 康子
		主任	看護師 看護部 佐藤 聡子
		主任	看護師 看護部 末平 由紀子
		主任	看護師 看護部 立川 加奈子
		主任	看護師 看護部 渡邊 千穂
		主任	看護師 看護部 熊谷 綾子
		主任	看護師 看護部 有村 靖代
		主任	看護師 看護部 石川 美葉子
		主任	看護師 看護部 小坂 裕佳子
		主任	看護師 看護部 敷 香織
		主任	看護師 看護部 森 裕子
		主任	看護師 看護部 谷口 希代子
		主任	看護師 看護部 荒川 龍子
		主任	看護師 看護部 板垣 貴子

第三病院

Table listing staff for the 3rd Hospital, including positions like 10等級 (参事), 9等級 (副参事), and various departments such as 事務部, 看護部, and 放射線部.

柏病院

Table listing staff for the Aki Hospital, including positions like 10等級 (参事), 9等級 (副参事), and various departments such as 事務部, 看護部, and 放射線部.

異動

企画室

Table listing staff movements for the Planning Room (企画室) across various departments like 経営企画課, 財務課, and 企画課.

大学

Table listing staff movements for the University (大学) across departments like 学事課, 研究支援課, and 研究支援課.

本院

Table listing staff movements within the hospital (本院) across various departments like 健康医学センター, 情報広報室, and 企画室.

青戸病院

Table listing staff movements for the Aohori Hospital (青戸病院) across departments like 管理課, 青戸看護専門学校, and 業務課.

Large table listing staff movements across various departments and hospitals, including positions like 8等級 (副参事), 7等級 (主務), and departments like 看護部, 事務部, and 放射線部.

柏病院

Table listing staff movements for the Aki Hospital (柏病院) across departments like 事務部, 看護部, and 放射線部.

復職

大学				
16.4.1	落合 輝美	研究技術員	医学情報センター	
本院				
15.12.23	戸澤 智恵 5等級(副主務)	看護師	看護部	
15.12.27	中澤 由美子 5等級(副主務)	看護師	看護部	
16.1.5	高柳 くみ子	事務員	医事課 (看護部出向)	
	大塚 美紀	看護師	看護部	
16.1.22	丸山 めぐる 5等級(副主務)	看護師	看護部	
16.3.5	後藤 久美	看護師	看護部	
16.3.25	牛込 留美香 4等級(副主務)	看護師	看護部	
16.4.1	江村 紀子	看護師	看護部	
	河村 由紀子	看護師	看護部	
	本間 千温	看護師	看護部	
	鶴川 治美	臨床検査技師	中央検査部	
	金山 愛	看護師	看護部	
16.4.12	柴田 聡子	栄養士	栄養部	
16.4.29	黒川 香奈子	栄養士	栄養部	
16.4.30	関口 恭子 5等級(副主務)	看護師	看護部	
16.5.1	下條 文子	看護師	臨床検査技師	晴海トリクリニック
16.5.10	佐藤 紀子	看護師	看護部	
青戸病院				
15.12.1	高山 英子 4等級(副主務)	栄養士	栄養部	
16.1.5	野澤 沙由里	看護師	看護部	
16.3.10	石渡 綾子	看護師	看護部	
16.3.19	竹内 美樹 5等級(副主務)	看護師	看護部	
16.3.31	羽坂 葉月 4等級(副主務)	看護師	看護部	
16.4.20	山田 あおい	看護師	看護部	
16.4.27	久保 博美	看護師	看護部	
第三病院				
15.12.25	藤本 麗子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	島田 陽子	看護師	看護部	
16.1.1	峯元 千清 5等級(副主務)	看護師	治療管理室	
16.2.7	目加田 晴子	看護師	看護部	
16.2.23	矢作 明美 5等級(副主務)	看護師	看護部	
16.3.1	伊藤 有紀	看護師	看護部	
16.3.10	庄子 美代子 6等級(主務)	看護師	看護部	
16.3.25	後藤 千恵子	看護師	看護部	
16.4.1	中里 恵子	看護師	看護部	
	佐竹 澄子	看護師	看護部	
	高村 喜代美	事務員	医事課 (看護部出向)	
	上原 由美子	看護師	看護部	
	須永 和美	看護師	看護部	
	栗山 民江	看護師	看護部	
	西村 淳子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
16.4.12	諏訪 由美子	看護師	看護部	
16.4.24	椎名 まき 4等級(副主務)	看護師	看護部	
16.5.1	松本 光子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
柏病院				
15.12.10	小松 愛	看護師	看護部	
16.1.1	横山 靖子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	佐々木 瑠美	看護師	看護部	
16.1.15	上野 真紀 4等級(副主務)	看護師	看護部	
16.3.16	三浦 あゆみ	臨床検査技師	中央検査部	
16.3.19	溝口 理美 4等級(副主務)	看護師	看護部	
16.4.1	藤井 圭子	臨床検査技師	中央検査部	
16.4.5	伊藤 千恵子	看護師	看護部	
16.4.11	村上 康子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
16.4.12	成瀬 かおり	看護師	看護部	
16.4.13	川緑 乃栄	看護師	看護部	
16.4.18	伊藤 奈津子	看護師	看護部	

休職

法人事務局				
16.4.9	上間 ゆき子 7等級(主務)	看護教員	慈恵看護専門学校	
大学				
15.12.3	佐川 由紀子	研究技術員	臨床情報部門	
15.12.10	落合 輝美	研究技術員	医学情報センター	
16.5.29	山下 智瑞	研究補助員	熱帯医学講座	
本院				
16.1.4	佐藤 紀子	看護師	看護部	
16.1.10	金山 愛	看護師	看護部	
16.1.17	下條 文子	臨床検査技師	晴海トリクリニック	
16.2.1	寺田 優子	看護師	看護部	
16.2.16	湯澤 めぐみ	事務員	医事課 (看護部出向)	
16.2.24	伊藤 晴美 5等級(副主務)	看護師	看護部	
16.3.3	神谷 亜矢子	看護師	看護部	
16.3.9	荒川 直美 4等級(副主務)	看護師	看護部	
16.4.1	後藤 敦子	看護師	看護部	
	稲葉 敦子	看護師	看護部	
16.4.15	天久 由希恵	看護師	看護部	
16.5.11	小幡 美穂	看護師	看護部	
青戸病院				
15.12.22	河合 美穂 4等級(副主務)	看護師	看護部	
16.2.3	渡辺 真由	看護師	看護部	
16.3.1	吉岡 博 4等級(副主務)	整備員	物品管理課	
16.3.25	山脇 貴理子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
16.4.4	福田 ひとみ	看護師	看護部	
16.4.23	小河 美香	看護師	看護部	
16.5.20	岡野 慶子	看護師	看護部	
16.5.28	西 多嘉子	看護師	看護部	
第三病院				
15.12.1	矢作 明美 5等級(副主務)	看護師	看護部	
15.12.2	須永 和美	看護師	看護部	
15.12.22	高村 喜代美	事務員	医事課 (看護部出向)	
16.1.5	栗山 民江	看護師	看護部	
16.2.19	渡邊 彩子	看護師	看護部	
16.3.29	青木 里衣	看護師	看護部	
16.4.2	大谷 奈巳	診療放射線技師	放射線部	
16.4.6	高石 小百合	看護師	看護部	
16.4.8	鈴木 歩 4等級(副主務)	看護師	看護部	
16.5.1	伊藤 志保	看護師	看護部	
	細調 希	事務員	看護部	
柏病院				
15.12.1	三浦 あゆみ	臨床検査技師	中央検査部	
15.12.5	紺野 恵子	看護師	看護部	
15.12.25	藤井 圭子	臨床検査技師	中央検査部	
16.1.6	田村 伸子 5等級(副主務)	看護師	看護部	
16.3.16	奥田 麻理子	看護師	看護部	
16.3.30	小林 明美 4等級(副主務)	看護師	看護部	
16.4.8	福地 香織	看護師	看護部	
16.5.8	徳本 直子 5等級(副主務)	看護師	看護部	
16.5.14	佐藤 奈津	看護師	看護部	
16.5.16	福田 美枝 4等級(副主務)	看護師	看護部	

職種変更

法人事務局				
16.4.1	相曾 正義 10等級(参事)	臨床検査技師	事務員	総務部
	溝口 孝美 7等級(主務)	看護教員	事務員	財務課
	溝口 理美 4等級(副主務)	看護師	看護教員	慈恵看護専門学校
第三病院				
16.4.1	田村 沙織	研究補助員	事務員	看護部
柏病院				
16.4.1	古川 はるこ	臨床心理士研修員	臨床心理士	精神神経科

除籍

本院				
16.4.1	齋藤 和美	看護師	看護部	大学 看護学科
第三病院				
16.4.1	池田 千賀子	看護師	看護部	大学 看護学科
	花澤 雪子	看護師	看護部	大学 看護学科

依願退職

大学				
15.12.31	永島 裕子	研究補助員	生理学第2	
本院				
15.12.16	藤尾 美智子	看護師	看護部	
15.12.31	岡田 泉	栄養士	栄養部	
	久保 美津紀	事務員	看護部	
	鳥居 直子	看護師	看護部	
	谷川 紗映子	研究補助員	耳鼻咽喉科学	
16.1.31	坂本 沙織 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	今澤 文恵 4等級(副主務)	看護師	看護部	
16.2.29	岩淵 香織	事務員	看護部	
	鈴木 香織	看護師	看護部	
16.3.9	後藤 恵	看護師	看護部	
16.3.31	野澤 香枝	事務員	医事課	
	小針 康子	栄養士	栄養部	
	吉沼 美里	調理師	栄養部	
	田代 治江	研究補助員	外科学	
	丹波 光子 5等級(副主務)	看護師	看護部	
	来間 栄里 5等級(副主務)	看護師	看護部	
	横内 さおり 5等級(副主務)	看護師	看護部	
	小関 理子 5等級(副主務)	看護師	看護部	
	石塚 美枝子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	遠藤 貴保 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	大島 左起子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	酒井 陽子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	清水 麻由子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	高橋 聡子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	中島 結香 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	安保 有子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	伊調 直子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	白田 富美江 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	西口 泰代 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	塚原 多映子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	土屋 ともえ 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	三上 良子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	金沢 真見 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	川副 亜由美 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	藤枝 直美 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	星川 公子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	村山 のぞみ 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	白井 博子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	町田 洋子 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	丸谷 裕美 4等級(副主務)	看護師	看護部	
	松本 多美枝 4等級(副主務)	事務員	看護部	
	清宮 良子	看護師	看護部	
	萩原 美紀	看護師	看護部	
	大植 美千代	看護師	看護部	
	高原 みゆき	看護師	看護部	
	樋口 祥子	看護師	看護部	
	穴見 亜希子	看護師	看護部	
	鹿島 彩女	看護師	看護部	
	久保田 千鶴	看護師	看護部	
	澤田 あかね	看護師	看護部	
	松本 真由美	看護師	看護部	
	山内 糸優	看護師	看護部	
	横井 咲子	看護師	看護部	

米澤 友美	看護師	看護部
上原 裕恵	看護師	看護部
神山 清美	看護師	看護部
川畑 啓子	看護師	看護部
杉沢 亜紀子	看護師	看護部
原田 耀子	看護師	看護部
山川 暢子	看護師	看護部
山本 恵	看護師	看護部
阪本 恭子	看護師	看護部
伊藤 蘭	看護師	看護部
勝見 みどり	看護師	看護部
川田 貴子	看護師	看護部
寺崎 由美子	看護師	看護部
中村 春菜	看護師	看護部
藤澤 雅美	看護師	看護部
水谷 桂子	看護師	看護部
吉川 裕子	看護師	看護部
清水 聡子	看護師	看護部
増田 美穂	看護師	看護部
湯浅 郁代	看護師	看護部
竹谷 つむぎ	看護師	看護部
齋藤 しのぶ	看護師	看護部
小宮 礼子	看護師	看護部
穴戸 わかな	看護師	看護部
鈴木 玉江	看護師	看護部
青木 尚子	看護師	看護部
上村 幾久美	看護師	看護部
小田垣 理香	看護師	看護部
川崎 由理	看護師	看護部
寒河江 祐里	看護師	看護部
迫中 由香	看護師	看護部
佐藤 絵美	看護師	看護部
佐藤 光吉子	看護師	看護部
関口 明子	看護師	看護部
田中 絵美	看護師	看護部
西 由紀子	看護師	看護部
樋口 容子	看護師	看護部
丸谷 鮎子	看護師	看護部
幸 早苗	看護師	看護部
青木 寿子	看護師	看護部
亀田 弘美	看護師	看護部
五味 和美	看護師	看護部
佐藤 美和	看護師	看護部
高橋 美恵子	看護師	看護部
瀧井 利佳	看護師	看護部
田中 優子	看護師	看護部
田中 暢子	看護師	看護部
寺林 理恵子	看護師	看護部
仲村 周子	看護師	看護部
那須野 衣美	看護師	看護部
西原 涼子	看護師	看護部
西宮 有紀江	看護師	看護部
吉岡 美保	看護師	看護部
吉村 友里	看護師	看護部
渡邊 康子	看護師	看護部
有馬 美和	看護師	看護部
池田 淳湖	看護師	看護部
上原 智美	看護師	看護部
兼氏 乃理子	看護師	看護部
北渡瀬 郁恵	看護師	看護部
島宗 優子	看護師	看護部
前田 美那子	看護師	看護部
横 ひとみ	看護師	看護部
横澤 里美	看護師	看護部
市沢 範里子	看護師	看護部
宇高 真由美	看護師	看護部

Table of staff assignments for various departments including nursing, administrative, and technical roles. Includes names like 鈴木 理恵, 中村 あい子, and 池野 陸美.

Table of staff assignments for various departments including nursing, administrative, and technical roles. Includes names like 上野 智恵美, 吉田 久美子, and 岩田 久美子.

Table of staff assignments for various departments including nursing, administrative, and technical roles. Includes names like 小柏 とみえ, 桑原 三江, and 安孫子 千鶴子.

Table of staff assignments for various departments including nursing, administrative, and technical roles. Includes names like 千葉 真奈美, 松川 訓子, and 八ツ田 由美子.

Table listing staff members and their departments, including roles like 看護師, 准看護師, and 理学療法士.

定年退職

Table listing staff members under the '定年退職' section, including names and positions.

企画室

Table listing staff members under the '企画室' section.

法人事務局

Table listing staff members under the '法人事務局' section.

大学

Table listing staff members under the '大学' section.

本院

Table listing staff members under the '本院' section.

青戸病院

Table listing staff members under the '青戸病院' section.

第三病院

Table listing staff members under the '第三病院' section.

柏病院

Table listing staff members under the '柏病院' section.

■附属4病院総括責任者

Table listing staff members for the '附属4病院総括責任者' section.

■診療部長

Table listing staff members under the '診療部長' section.

■本院

Table listing staff members under the '本院' section.

■青戸

Table listing staff members under the '青戸' section.

■第三

Table listing staff members under the '第三' section.

■柏

Table listing staff members under the '柏' section.

■診療部長(兼任)

Table listing staff members under the '診療部長(兼任)' section.

■本院

Table listing staff members under the '本院' section.

■青戸

Table listing staff members under the '青戸' section.

■第三

Table listing staff members under the '第三' section.

■柏

Table listing staff members under the '柏' section.

■診療部長代行

Table listing staff members under the '診療部長代行' section.

■本院

Table listing staff members under the '本院' section.

■本院

Table listing staff members under the '本院' section.

■第三

Table listing staff members under the '第三' section.

■柏

Table listing staff members under the '柏' section.

■診療医員

Table listing staff members under the '診療医員' section.

■本院

Table listing staff members under the '本院' section.

■第三

Table listing staff members under the '第三' section.

■柏

Table listing staff members under the '柏' section.

■本院

Table listing staff members under the '本院' section.

■第三

Table listing staff members under the '第三' section.

■柏

Table listing staff members under the '柏' section.

■本院

Table listing staff members under the '本院' section.



Table of medical staff appointments and transfers, including names, departments, and dates. Includes sections for '本院' (Hospital) and '准診療医員' (Qualified Medical Staff).

Table of medical staff appointments and transfers, including names, departments, and dates. Includes sections for '本院' (Hospital) and '准診療医員 (無給)' (Qualified Medical Staff - Unpaid).

Table of medical staff appointments and transfers, including names, departments, and dates. Includes sections for '本院' (Hospital) and '非常勤診療医員' (Part-time Medical Staff).

Table of medical staff appointments and transfers, including names, departments, and dates. Includes sections for '平成16年度附属病院リサーチレジデント' (Research Residents) and '診療部長解除' (Removal of Department Chief).

■診療医員解除

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 本院, 青戸, and 柏.

青戸

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 本院, 第三, and 柏.

第三

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 本院 and 柏.

柏

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 本院 and 第三.

■准診療医員（無給）解除

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 本院 and 第三.

青戸

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 本院 and 柏.

■准診療医員解除

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 本院 and 第三.

■非常勤診療医長解除

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 本院 and 青戸.

青戸

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 第三 and 青戸.

■非常勤診療医長（兼任）解除

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 本院 and 青戸.

青戸

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 第三 and 青戸.

第三

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 柏 and 第三.

柏

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 本院 and 第三.

■非常勤診療医員（兼任）解除

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 本院 and 柏.

柏

Table with columns for date, name, position, and affiliation. Includes entries for 第三 and 柏.

人事

平成16年3月31日(水) 退任 佐々木三男 校長(慈恵看護専門学校)

平成16年4月1日(木) 就任 真柄直郎 校長(臨床検査医学教室 教授)

4等級(副主務) 看護教員 吉田恵美

転入 4等級(副主務) 看護教員 溝口理美 (附属柏病院 看護部)

行事

平成15年11月18日(火) 1. 東京慈恵会理事会在開催された。

平成15年12月12日(金) 1. 平成15年度慈恵看護専門学校戴帽式が次のとおり挙行された。

1年生(第54期生) 84名

平成16年3月12日(金) 1. 慈恵看護専門学校卒業式が、寛仁親王妃信子殿下のご臨席のもとに挙行されました。

卒業生 66名

平成16年3月16日(火) 1. 東京慈恵会理事会・評議員会・臨時総会が開催された。

平成16年4月6日(火) 1. 平成16年度慈恵看護専門学校入学式が次のとおり挙行された。

入学生 92名

ご寄付のお礼

BULLETIN BOARD

ご寄付のお礼と今後のご協力をお願い

東京慈恵会医科大学は創立以来、人類の最大の願望である健康を追求し、教育機関・医療機関としてその使命を果たしてまいりました。最高・最善の医療を提供していくために不断の努力を傾注しておりますが、そのためには大学・病院の基盤整備が不可欠でございます。

創立百二十周年記念事業として、教育・研究の中心となる大学1号館が平成14年3月末に竣工し、今後も本院外来棟の建築、青戸病院の新築、第三病院や柏病院の整備などを進めてまいります。これらの基盤整備には莫大な資金が必要となり、大学も自助努力を重ねておりますが、自ずからの資金調達には限界があります。

平成12年10月より、創立百二十周年記念募金を目標額50億円として申込受付を開始いたしております。皆様のご支援をいただき、平成16年5月末までに下記の寄付金の申込がございましたので、ご報告申し上げます。

本学の将来計画と学祖の精神にご賛同賜り、関係各方面から心温まるご支援をいただき、ご芳志に厚くお礼申し上げます。はなはだ厳しい経済状況のもと、ご協力をお願いいたしまして誠に恐縮ではございますが、そのご支援が必ずや社会に還元されていくこととご理解賜りますよう、さらにより一層の努力をしていく所存です。今後とも関係各位の全面的なご協力・ご支援を、よろしくお願い申し上げます。

創立百二十周年記念事業委員会委員長
学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏

寄付金申込者区別累計

(平成16年5月31日現在)

総申込者数	3,569件	
総申込金額		3,068,751,595円
区別申込状況		
・卒業生 OB	970件	759,447,020円
・父兄会関係	326件	644,894,000円
・教職員	1,876件	301,735,565円
・賛同企業	346件	1,298,700,000円
・一般団体&個人	51件	63,975,010円

寄付者名簿

BULLETIN BOARD

同窓生

荒井 由和
伊坪 喜八郎
井上 十四郎
岡部 武史
白濱 圭吾
中山 脩郎
林 忠男
前田 立雄
松井 道大
南 信明
本吉 光隆

父兄

青木 直人
秋久 俊博
東 清和
池田 孝一
石川 敏
伊藤 安子
岩田 一司
宇野 栄一
尾泉 良和
大井 高司
大東 雅幸
加藤 信司
加茂 紘一郎
木下 俊彦

佐藤 正伸
杉村 憲司
鈴木 敏正
瀬戸 幹雄
竹川 忠芳
田辺 秀樹
田村 洋和
富田 香
中村 慎吾
橋本 聡
林 太郎
古橋 秀昭
古谷 清貴
増田 智栄子
武藤 裕二
森川 洋一

教職員

伊坪 真理子
林 孝彰

一般個人

市川 理子
栗田 文子
田嶋 良子
廣田 榮次郎
藤井 史子
安田 達彦
山下 昭子
鷲塚 路子

- 平成15年12月1日から平成16年5月31日までにご寄付くださった方々の内容に基づき作成しました。
- 教職員で給与、賞与から天引きされている方々ならびに分割振込みされている方々のご芳名は省略しています。(初回掲載済)
- ご芳名は敬称を省略し、五十音順に掲載しました。
- 尚、この名簿には匿名希望の方の分は掲載しておりません。



The JIKEI 2004 Summer
Vol.6

発行 学校法人 慈恵大学
発行人 理事長 栗原 敏
連絡先 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
慈恵大学 広報課
電話 03-3433-1111
F A X 03-5472-4796
e-mail koho@jikei.ac.jp
号 数 第6号
発行日 2004年7月1日

<http://www.jikei.ac.jp/>

~~~~~ 編集後記 ~~~~~

今号では、座談会やニュースなどを通して、社会的信頼の回復に向けた本学の様々な取り組みをお伝えしました。新体制へ移行して新たな時代に相応しい大学運営を行うとともに、医療に対する意識改革を促す各種のセミナーやシンポジウムなどが開催されています。厳しい環境の中で、創業者の精神に立ち戻って信頼回復に邁進する姿をご理解いただき、今後ともご支援いただければ幸いです。本誌では、今後とも21世紀の新しい慈恵の姿を様々な角度からお伝えしていきたいと考えています。より役に立つ法人誌にするためにも、是非、本誌をご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

大学広報委員会委員長 阿部 俊昭